

民間活動拠点活性化モデル事業調査報告書

2 0 0 8 年 3 月

港南区区政推進課

山路商事株式会社

■目次

はじめに

I 章：民間活動拠点活性化モデル事業について	1
(1) 港南区版市民活動支援センター構想と民間活動拠点	2
ア 港南区版市民活動支援センター構想の概要	2
イ 港南区版市民活動支援センター本体の整備内容想定	7
(2) 民間活動拠点の状況	9
ア 民間活動拠点の抽出	9
イ 民間活動拠点の概要一覧	10
(3) 民間活動拠点活性化モデル事業の内容	12
ア モデル事業の枠組み	12
イ 2つのモデル拠点の選定と理由	13
ウ 2つのモデル拠点の概要	14
エ 協働協定書の締結	15
II 章：モデル拠点からの事業報告	19
(1) 港南台タウンカフェ	20
ア 報告書の趣旨	21
イ 港南台タウンカフェを取り巻く、地域のつながり	21
ウ 事務局的つなぎ役としてのタウンカフェ	22
エ タウンカフェの貸しスペース機能から生ずる連携・交流	25
オ 港南台テント村について	30
カ タウンカフェの運営にかかわる多様な人々	31
キ 対外発信	34
ク 区役所との協働の検証と 2008 年度に向けた要望	35
(2) さわやか港南	37
ア 活動拠点の概要	37
イ まちかど交流ステーションの基本機能に該当する事業	40
ウ モデル事業の評価と課題	49

Ⅲ章：情報交換会	51
(1) 情報交換会の概要	52
ア 第1回情報交換会	52
イ 第2回情報交換会	53
ウ 第3回情報交換会	54
エ 第4回情報交換会	55
オ 第5回情報交換会	56
(2) 報告会の概要	57
ア チラシ	57
イ 出席者一覧	59
ウ 議論の主題	60
エ 報告会での主な意見	62
Ⅳ章：モデル事業の評価と今後の展望	69
(1) モデル事業を通じて見えてきたこと	70
ア 「民間活動拠点」の特徴	70
イ ブランチと位置づける上での課題	72
(2) 市民活動支援の展望と提案	73
ア ブランチ構想	73
イ さらなる市民活動支援に向けて	75

はじめに

港南区では、区版市民活動支援センターの整備を平成 20 年度に予定しています。そして、区民活動支援は区民と行政が協働して進めていくことが不可欠であると考えています。なぜなら、「共感と実践から、新たな市民的価値を創造する都市」ヨコハマを目指す上で、市民が主体となった地域運営を行い、市民の中に新しい公共概念を形づくっていくことが大切であるからに他なりません。

そこで、区全域をカバーする基幹（センター）施設としての区版市民活動支援センターの役割を補完し、地域ごとに区民が気軽に集まり、話し合いを行ったり悩みの相談ができるブランチを「まちかど交流ステーション」として位置づけることを構想しました。「まちかど交流ステーション」には、構想に叶う要件を満たしたいくつかの民間活動拠点を想定します。

平成 19 年度は「民間活動拠点活性化モデル事業」として、2つの民間活動拠点と区役所の間で協働協定書を締結し、ブランチとして民間活動拠点が担う機能等について検証をおこなってきました。同時に、民間活動拠点、地域利用施設、市民活動支援センター等の関係者の参加を得て、定期的に「情報交換会」を開催し、ブランチを通じてなされるべき市民活動活性化の方法等について検討を行ってきました。

ここに、モデル事業の実施結果を調査・検証し、報告書としてとりまとめます。

I 章：民間活動拠点活性化モデル事業について

(1) 港南区版市民活動支援センター構想と民間活動拠点

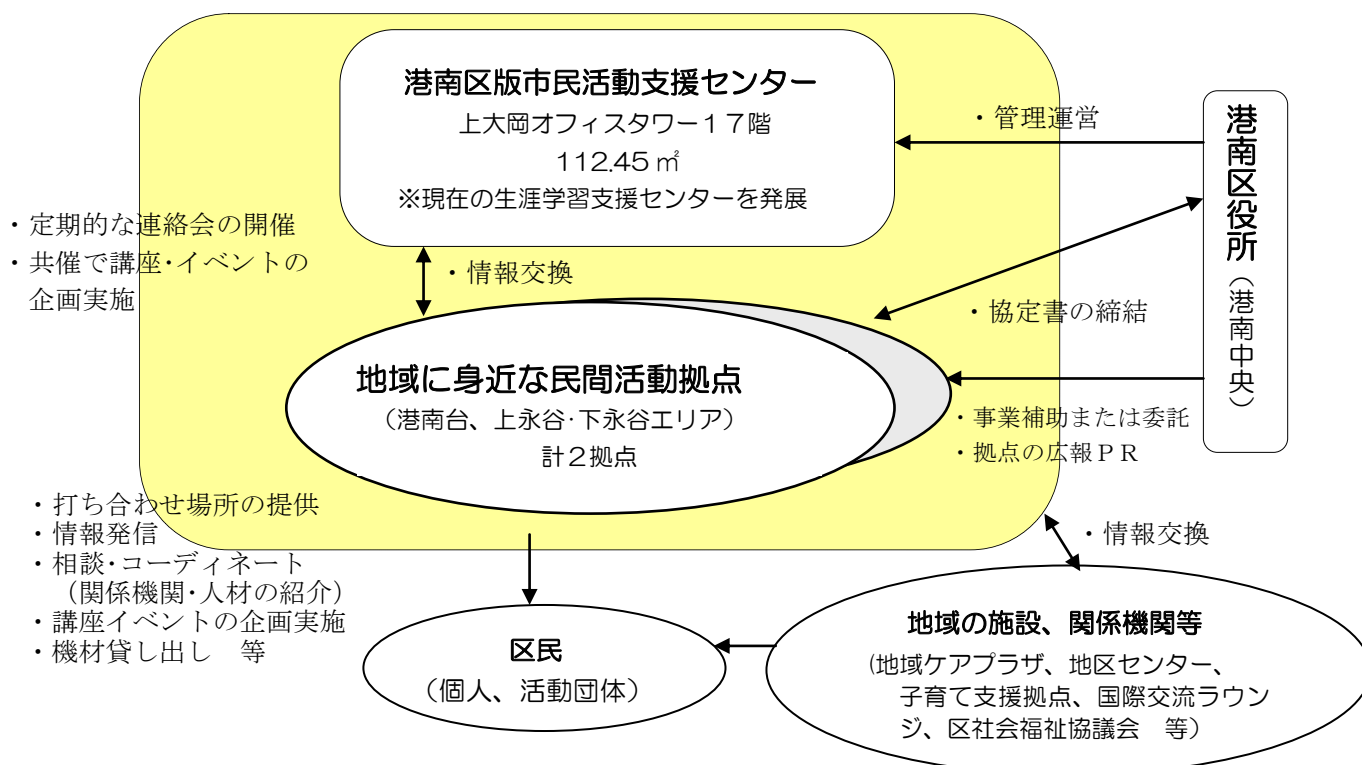
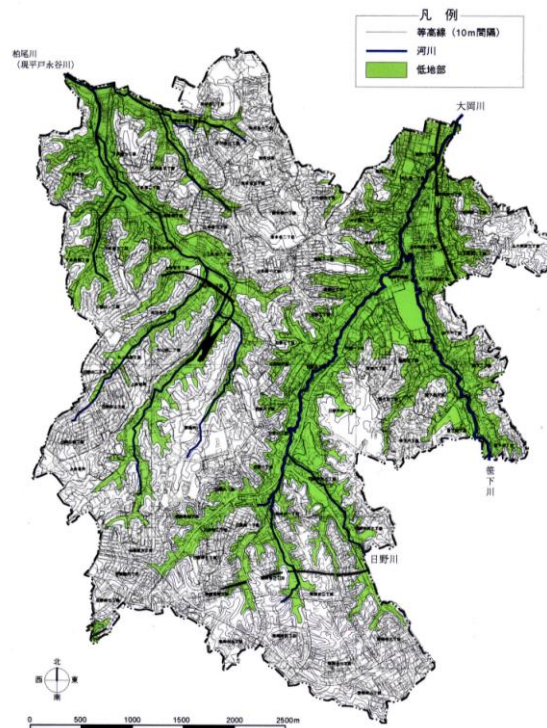
ア 港南区版市民活動支援センター構想の概要

港南区では平成 17 年度より港南区版市民活動支援センターの整備について検討を行ってきました。この間、市民活動団体アンケート、市民活動グループヒアリング、港南区コラボレーションフォーラムの実施等を通じて、区民の期待の把握に努めてきました。

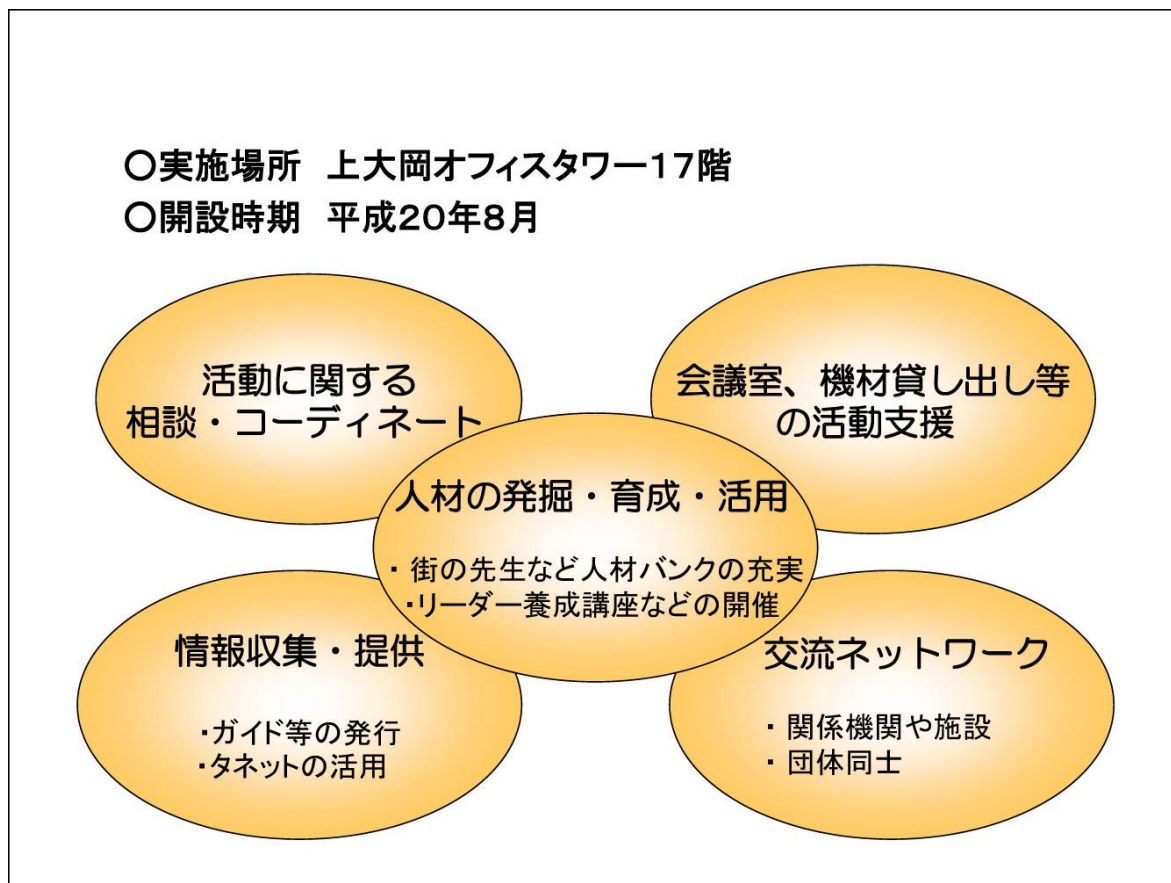
その結果、支援センター設置の必要性はもとより、身近な地域密着型で市民活動を活発にしていけないか、という声が多く寄せられました。

これは、港南区は地形および交通の構造上、区全体を束ねる場所を生み出せず、各地域の独立性が強くなる特徴があることにも起因すると考えられます。

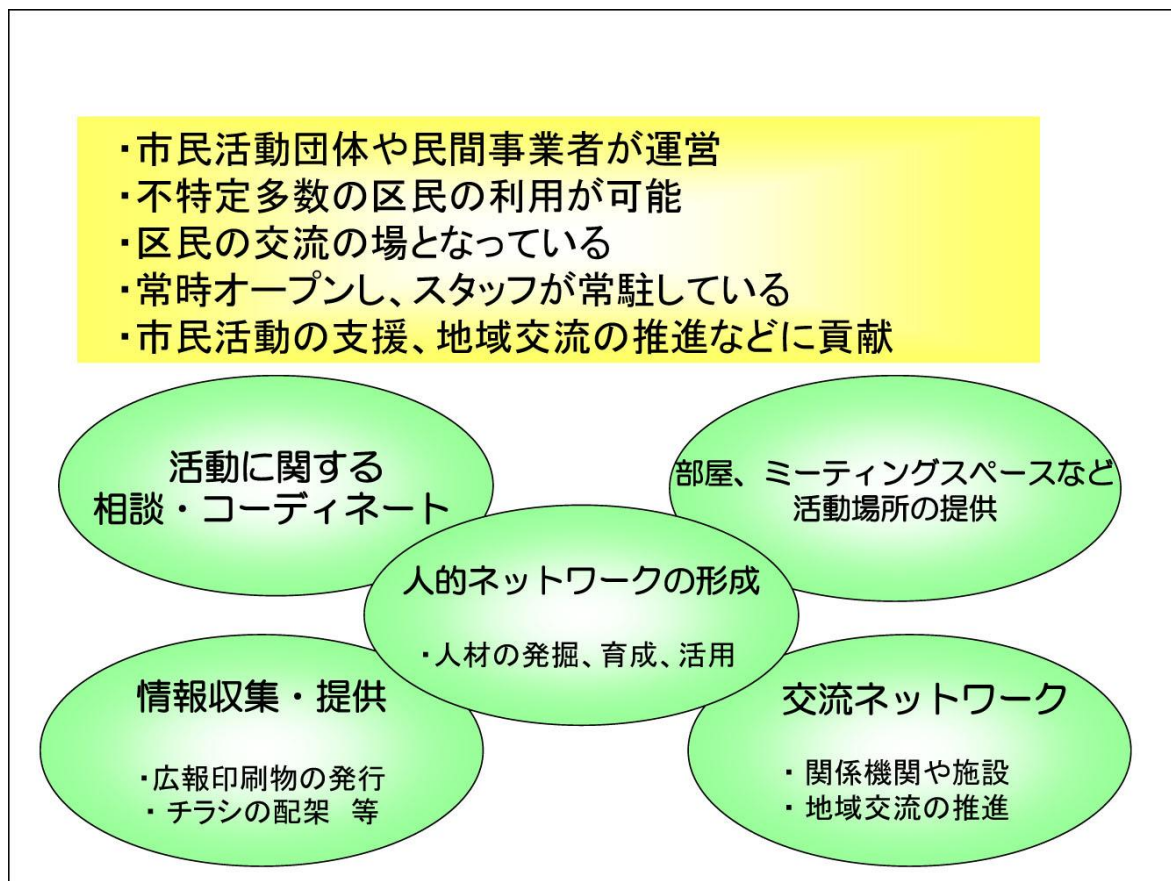
そこで、区全域をカバーして広域的なネットワークの基幹（センター）施設としての役割を果たす「港南区版市民活動支援センター」と、地域ごとに区民が気軽に集まり、話し合いを行ったり悩みの相談ができるサテライトとしての「まちかど交流ステーション」（市民活動団体や民間事業者等が運営する地域の活動拠点）が連携して、市民活動を支援する仕組みを構想しました。



◎港南区版市民活動支援センターの基本機能



◎まちかど交流ステーションの基本機能



■参考：全市における市民活動支援センター整備の状況

(1) 背景

多様化する地域の課題 ←

・高度成長から非「成長・拡大」へ
・市民ニーズの多様化 など



地域的・社会的課題に、市民の意欲や能力を発揮しながら、きめ細やかに対応する必要がある。

活動の支援、市民活動の推進

【横浜市中期政策プラン(2002～2006)】

・重点施策「市民活動支援センターの充実・地域展開」

【横浜市時期中期計画・重点行財政改革】

・重点取組2-2-1「市民活動支援センターの地域展開と運営充実」

(2) 設置状況

○横浜市市民活動支援センター(平成12年)設置

- ・横浜市の市民活動を総合的に支援
- ・桜木町、戸塚、市ヶ尾の3箇所で開催

○区版市民活動支援センター

- ・平成16年より設置開始
- ・20年3月現在までに、12区で設置済
- ・平成20年度中に、残り6区(港南、西、磯子、港北、戸塚、泉)でも展開予定

(3) 他区の事例(緑区)

【主な役割】

- ・市民の活動拠点(場)としての機能
- ・情報(収集・提供)としての機能
- ・生涯学習、人材育成、協働事業の推進拠点としての機能
- ・市民活動、生涯学習の相談・コーディネート機能



イメージ

■参考：市民活動団体支援にかかわるアンケート

(1) アンケート調査

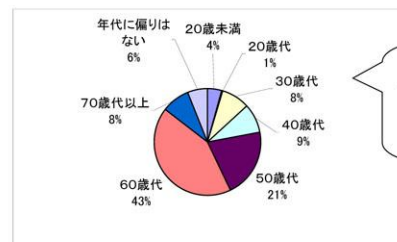
- ・ アンケート実施日：平成18年8月
- ・ 対象者：港南区を中心に活動する区民活動、生涯学習団体
- ・ 送付数：219 回答数：137(回収率63%)

Q1 団体が発足してから年数はどのくらいですか？

- ・ 長く活動を続けている団体が多い
- ・ 発足した間もない団体もあり、活動団体が増加



Q2 会員の年齢構成はどの年代が一番多いですか？



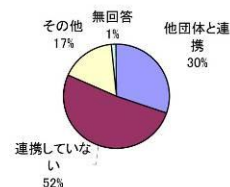
- ・ 60、70歳代だけで全体の半数以上を占める。(50歳代も加えると全体の7割を超える)

Q3 活動を行う上で、課題となっていることは何ですか。

1 活動場所の確保	(59)	7 自治会等地域の協力	(14)
2 活動の担い手	(48)	8 打ち合わせ場所の確保	(14)
3 活動資金	(46)	9 情報発信	(14)
4 会員数	(38)	10 他団体との交流、連携	(14)
5 行政の支援	(22)	11 活動ノウハウ	(11)
6 情報収集	(15)	12 その他	(14)

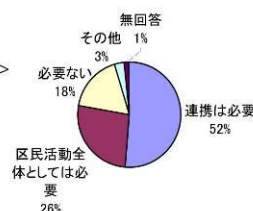
Q4 活動を行う上で連携をとっている他の活動団体や組織はありますか。

- 他団体と連携している団体は3割、連携していない団体が5割



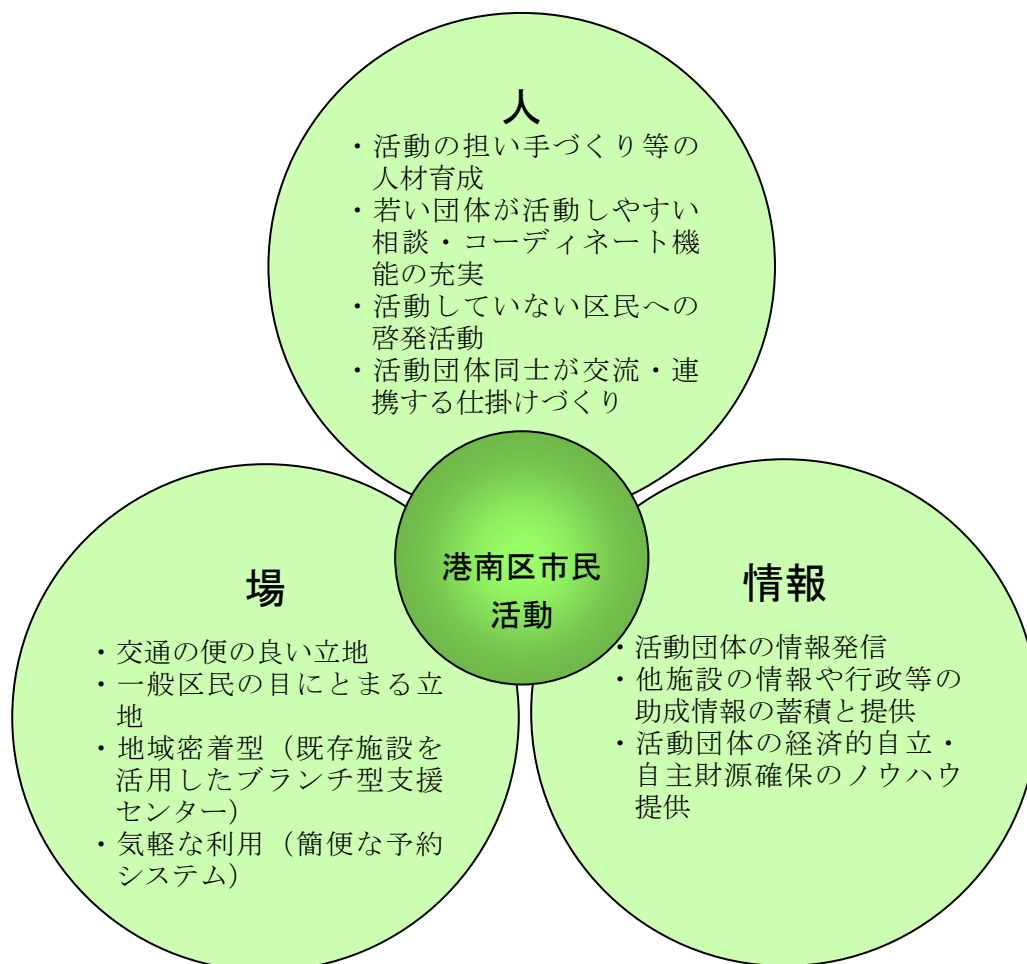
Q5 今後、活動を行っていく上で、他の活動団体や組織との連携は必要だと思いますか。

- 5割以上が「必要」、3割弱が「自分たちの活動には必要ないが、区民活動全体としては必要」と回答



市民活動団体アンケート、市民活動グループヒアリング、港南区コラボレーションフォーラムを通じて寄せられた区民の声は、「港南区版市民活動支援センター」への期待にあふれたものでした。例えば、「支援センターができたら利用するか」との問いに対して、回答した団体の約9割が、「利用したい」あるいは「機能、立地によっては利用したい」と答えています。

同時に、期待の具体的な内容についてもさまざまな声がありました。その内容は、「人」「場」「情報」をキーワードとして、以下のように整理することができます。



イ 港南区版市民活動支援センター本体の整備内容想定

港南区において想定されている「港南区版市民活動支援センター」本体の整備内容は以下の通りです。

1 趣旨

現在、港南区内には、テーマ型市民活動団体や地域活動団体（自治会・町内会活動等）など、地域への貢献活動に取り組まれている区民が数多くいます。こうした区民の地域貢献活動を支援し、より活性化させていくことを目的として、港南区版市民活動支援センターを設置します。

また、港南区版市民活動支援センターでは、地域貢献活動の担い手となる人材を育成し、新たに活動に取り組む区民を増やすことで、各地域におけるさまざまな課題について、地域が主体となって解決できるようにしていきます。

2 概要

（1）実施場所

ア 横浜市港南区上大岡西 1-6-1 ゆめおおおかオフィスタワー 1 7 階
（現在の港南区生涯学習支援センターの場所を使用します。）

イ また、区役所地域振興課スペースに、市民活動支援センター窓口の設置を検討しています。

ウ なお、港南台エリア、上永谷・下永谷エリアについては、既存の民間活動拠点と連携した市民活動支援を行っていく予定です。（「港南区版市民活動支援センター・ランチ運営事業」）

（2）開設予定日

平成 20 年 8 月（ランチを含む）

（3）開館時間

ア 毎週月～金曜 8 時 45 分～17 時 15 分、第 2・4 土曜 9 時～12 時

※なお、土日・夜間の開館については、オープン後、利用者の使用状況等に応じて、随時拡大を検討する予定です。

（4）体制

嘱託員 4 名配置（オフィスタワー勤務 3 名、港南区役所窓口 1 名）

3 事業内容

地域活動の担い手を支援・育成するために、情報提供および人材育成を重点として、事業を実施します。（※詳細は別紙を参照）

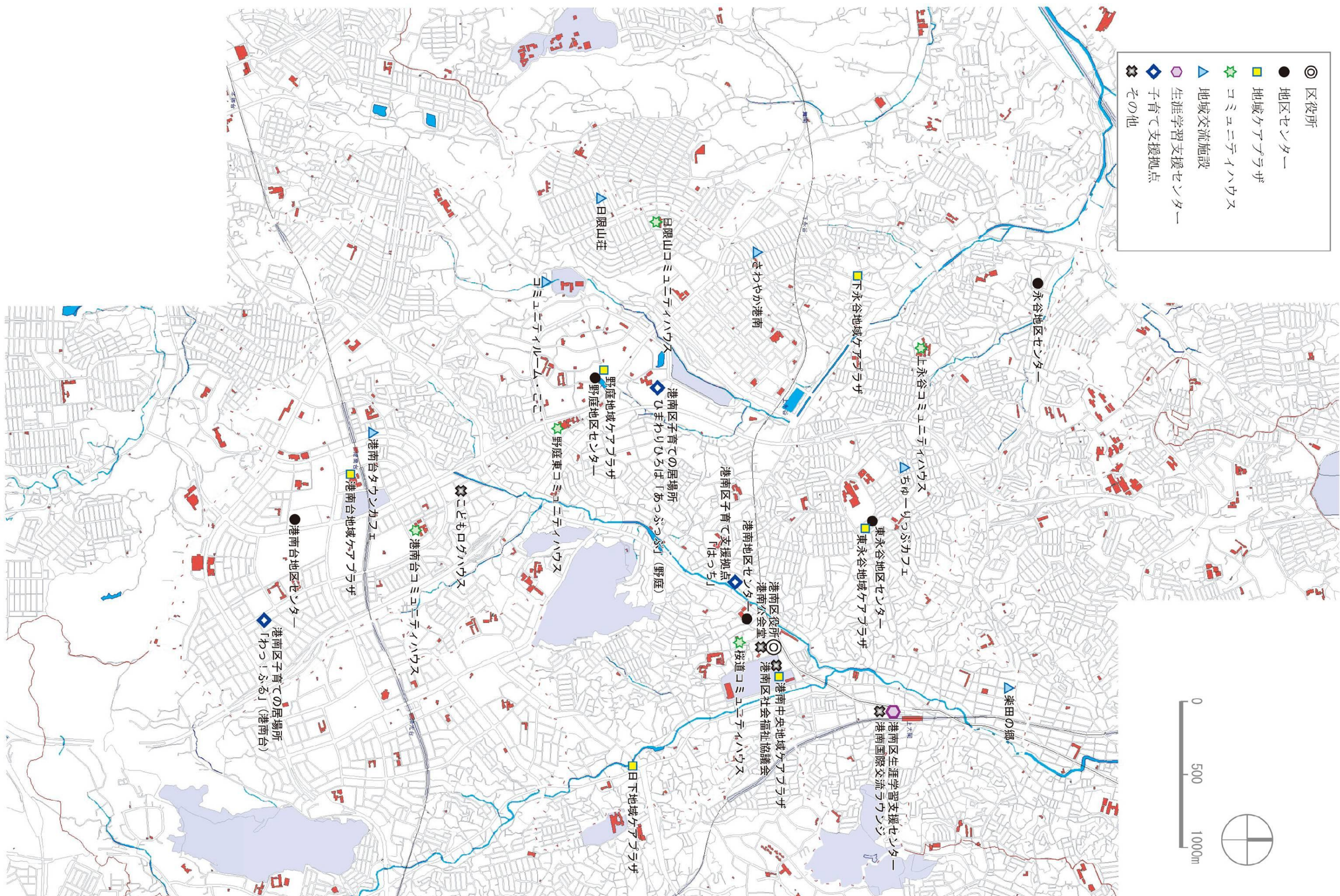
- （1） 地域人材の発掘・育成・活用
- （2） 情報提供・発信・収集
- （3） 交流・ネットワーク
- （4） 活動支援（場の提供及び機材貸し出し等）
- （5） 相談・コーディネート



イ 民間活動拠点の概要一覧

	拠点名	住所・連絡先	開催日	運営主体	拠点立ち上げの経緯	会費・利用料等	事業内容
1	港南台 タウンカフェ	港南台4－17－22 ボックスタミ2階 (832-3855)	毎週月～土曜 10～19時 (日・祝休)	(株)イータウン	港南台商店街の事務局として、事務所スペースを確保したことが始まり。港南台商店街、まちづくりフォーラム港南(市民活動団体)との協働で、商店街の空き店舗を活用し、平成17年に港南台タウンカフェとしてオープン。	・会議、活動テーブルの提供 利用料100～400円/1名1時間(営利/非営利活動、個人/団体等で金額が違う) 席数:20席 (詳細は http://www.town-cafe.jp/kounandai/space/index.html)	○交流・会議スペース、作業スペースの提供 ○レンタル棚(小箱ショップ)の提供 ○地域情報HP「こうなんだいe-town」やかわら版(「タウンカフェ通信」年2回)の企画発行 ○港南台テント村の企画運営 ○「音楽通り」、「まちサロン」、「キャンドルナイト」等の交流イベント・講座の開催 ○その他 港南台商店会の事務局を担う
2	在宅支援サービス さわやか港南	日限山1－32－4 (820-5883)	毎週月～金曜 10～16時 (土・日・祝休)	在宅支援サービスさわやか港南	平成11年頃、地域の助け合いの場として、日限山・丸山台地域の町内会等の協力のもと、上永谷にプレハブ事務所を設置。約1年後に個人宅を借り、現在の場所に移転した。	・入会金なし。 ・会費:個人3,000円/年 ・家族5,000円、団体1万円 ・家事サービス等利用料850円/1時間 ・会議スペースの提供 1階8畳(洋)と6畳(洋)(14畳としても利用可)、2階8畳(洋)と6畳(和)。1コマ(10～12時、13時～16時)1,000円。調理等の光熱費がかかる場合は別途500円。夜間等の利用も応相談。	○在宅支援 家事援助サービス等の助け合い事業 ・生活相談(無料) ・家事サービス(有料) (家事、室内における歩行補助、通院、散歩の介助等) ・その他 幼児の送迎等 ○地域サークル向け活動場所の提供(宿泊可) ○不登校児の居場所 ○地域のための交流イベント・講座等の企画運営 ○相談&交流コーナー(19年12月設置予定)
3	コミュニティー ルーム・ここ	野庭町665野庭サブ センター内 (842-1755)	11～17時 (火・日・祝日 休)	ワーカーズコレクティブ コミュニティーコーディ ネーター・ここ	野庭団地サブセンターの空き店舗を活用して、スタッフ十数名で出資。平成17年オープン。	会費年間1,000円、利用料300円、昼食代600円、講座参加費は別途。	○交流スペース、居場所の提供 ○転倒予防体操教室、歌声喫茶等、講座・イベントの開催 ○高齢者向け昼食の提供 ○放課後児童の居場所づくり ○野庭サブセン便りの発行
4	日限山荘	日限山4－7－1 (844-7477)	毎週火・金曜 昼前～15:00 頃	NPO法人 総ぐるみ福祉の会	平成14年、介護サービス事業者のNPO法人が地域に働きかけ、地域の高齢者の居場所として開設。家主の自宅の一部(2階)を借りて実施。18年度に福祉保健課の補助で内装改築。	会費年間3,000円、昼食代300円(ただし会員にならなくても利用可)	○拠点の運営 ・交流スペース、居場所の提供 ・ボランティアスタッフによる昼食作りと提供 ・健康体操、編み物等教室等の実施 ・イベントの企画実施 ○高齢者・障害者を対象とした福祉サービスの提供(NPO法人総ぐるみ福祉の会の介護事業として。別の場所に事務所あり) ・介護保険による訪問介護、移送 ・介護保険外サービスによる有償ボランティア
5	楽田の郷	最戸1－22－30 (080-5022-6072)	毎週月、火、木、 金曜 10:30～14:30	楽田の郷	代表者は、市の補助で予防型デイサービスを行っていたが、事業が終了。地区センター等で活動が続けたが、活動の場が思うように確保できず、拠点をオープン。(19年4月)個人宅の自宅離れを借りている。	会費年間2,000円、利用料(講座参加費)1回300～600円(講座によって違う)	○介護認定を受けていない概ね65才以上の方を対象とした、たまり場の提供 ○健康体操、手工芸など講師による講座の開催
6	ちゅーりっぷ カフェ	東永谷1－19－7 (824-7770)	毎週 火・水・ 木・金曜、第3 土曜 9:30～14:30 (祝日にあたる ときは休み)	NPO法人 ちゅーりっぷ	市社会福祉協議会が補助を行っている「親と子のつどいの広場」のひとつ。任意の活動団体「ちゅーりっぷ編集部」が、平成17年に法人格を取得し、「NPO法人ちゅーりっぷ」に。代表者の自宅1階を開放して活動している。	利用料400円 (「ベビーマッサージ」「親子でチャレンジ」講座等は別途100～600円の参加費がかかる。)	○子育て親子の交流、つどいの場の提供 ○子育てアドバイザーによる、子育て悩み相談の実施 ○利用者の親子に対する、地域の子育て関連情報の提供 ○子育てボランティア等に対する研修の実施

■港南区身近な暮らしの拠点位置図



(3) 民間活動拠点活性化モデル事業の内容

ア モデル事業の枠組み

「民間活動拠点活性化モデル事業」は以下の枠組みにしたがって行いました。

1 目的

- (1) 地域に密着した活動拠点をより活性化させることで、地域住民や活動団体の交流促進、地域で支え合う力の向上を目的とします
- (2) 拠点との定期的な意見交換、情報交流を通して、地域と区との連携強化を目指します
- (3) 将来的に既存の交流拠点が、区版・市民活動支援センターのブランチ型として機能しえるのかなども含め、事業実施を通して機能・課題等について検証します。(よって、19年度はモデル実施の形をとります。)

2 対象となる拠点を要件

- ・主たる活動のエリアを港南区内としているNPO法人、任意の市民団体、個人、事業者が、運営している施設であること
- ・不特定多数の区民の利用が可能であり、区民の交流の場となっている施設であること
- ・常時オープンし、スタッフが常駐している施設であること
- ・公共的サービスの提供、区民活動の支援など、地域コミュニティの形成、地域課題の解決に貢献している施設であること
- ・概ね5年間は継続できる見込みがあること

3 対象拠点の選考

- (1) 19年度は試行的に事業を実施し、課題等について検証するため、公募方式ではなく、まちかど交流ステーションの趣旨を理解・賛同してくれる拠点到区から依頼します
- (2) 現在、生涯学習支援センターが上大岡にあります。港南区の地域構造を念頭に、方面別に拠点ををつくることを進めるとした場合、拠点の候補地としては、港南台方面及び上永谷・下永谷方面での立地が想定できます

4 協働協定書の締結

区と交流ステーションとの間で“まちかど交流ステーション協働協定書（仮称）”を締結し、双方の役割、責任を明確にします。

(1) 拠点の役割

- ・地域情報や区役所情報などを積極的に発信します
- ・市民活動などの悩み事について相談に乗ったり、場合によってはコーディネートを行います

- ・まちかど交流ステーション事業を利用して、区が事業を行う場合には運営協力をします
- ・区との情報交換会に参加します

(2) 区役所の役割

- ・地域情報、区役所情報などを発信するための備品（ラック等）を提供します
- ・まちかど交流ステーションに関する広報・PRを積極的に行います
- ・まちかど交流を利用して、区の事業を行います
- ・情報交換会を開催し、開催経費を負担します

イ 2つのモデル拠点の選定と理由

平成 19 年度、協働協定書を締結してモデル拠点として位置づける民間活動拠点は、港南台エリアについては「港南台タウンカフェ（株式会社イータウン）」、上永谷・下永谷エリアについては「さわやか港南」を選定しました。その理由は以下の通りです。

a. 港南台タウンカフェ（株式会社イータウン）

港南台エリアで「民間活動拠点」を運営しているのは「港南台タウンカフェ」のみです。

また、モデル事業としては、港南区役所との協働での実施という趣旨に理解・賛同でき、かつ事業結果の調査検証等を港南区役所と共に行える体制を有する「民間活動拠点」と実施する必要があります。「港南台タウンカフェ」は、現在、すでに地域情報の発信、活動場所の提供、講座イベントの開催など、エリア内の活動団体・区民利用施設とのネットワークを築きながら、区民活動支援及び地域コミュニティの形成に努めています。

こうした、地域とのネットワークを有する「民間活動拠点」と協働で事業実施及び検証を行うことで、次年度以降の港南区における区民活動支援に活かしていくことが可能となると考えられます。

b. さわやか港南

上永谷エリアには3箇所の「民間活動拠点」があります。

「さわやか港南」は、現在、すでに地域情報の発信、活動場所の提供、講座イベントの実施など、エリア内の活動団体・区民利用施設とのネットワークを築きながら、区民活動支援及び地域コミュニティの形成を進めています。また、上永谷エリアにある3つの「民間活動拠点」のうち、現在、区民活動団体への相談業務等を実施している団体は「さわやか港南」のみです。

今回のモデル事業については、相談業務の実施及び実施結果の検証に重点を置いており、長年の相談業務に関するノウハウの蓄積を持つ上記団体と実施することで、次年度以降の港南区における区民活動支援策に活かしていくことができます。

ウ 2つのモデル拠点の概要（広報よこはま港南区版平成20年2月号での紹介）

a. 港南台タウンカフェ

港南台タウンカフェは、JR 港南台駅から徒歩2分、木のぬくもりと柔らかな照明がほっとする、地域の人々が集うコミュニティカフェです。カフェ内の壁には、60 を越えるレンタル棚、「小箱ショップ」があり、区民の方々による手作りのクラフトやかわいいアクセサリなどがところ狭しと陳列販売され、人気を呼んでいます。

また、タウンカフェでは、自治会・町内会をはじめ、横浜港南台商店会やボランティア団体などと連携して、地域の方々が主体性をもって地域活動に参加できるよう、まちづくり交流イベントや、かわら版「港南台タウンカフェ通信」の企画・運営などを行っています。こうした事業の実施には、高校生・大学生から中高年の方々まで、地域のさまざまな世代の市民が関わっており、港南台地域の人と人とのつながりづくりに寄与しています。



b. さわやか港南

日限山1丁目の、閑静な住宅街の一角にある一軒のお宅が「さわやか港南」です。「さわやか港南」では、「困ったときはお互いさま」を合言葉に、生活相談や家事援助サービス（家事、通院・散歩の介助、庭木の剪定等）など、地域内での助け合い事業を実施しています。また、地域の団体・サークルの活動・会議場所として部屋を貸し出している他、月に1回、災害対策やボランティア活動など、さまざまなテーマをもとにした雑学講座を開催しています。

さらに、丸山台商店会発行の地域ガイド（「はあとふるたうん丸山台」）で、地元コーナーの企画・編集等の協力も行うなど、地域との連携事業も活発です。

今年度中には部屋を増築し、新たに相談・交流コーナーを設置する予定です。今以上に、地域のあらゆる世代の方々が集いやすく、ほっとできるたまり場になることを目指しています。



エ 協働協定書の締結

＊実際の協定書は「甲」の欄にそれぞれの民間活動拠点受託者名を記しています。本文は両拠点ともに同一です。

民間活動拠点活性化モデル事業に関する協定書

〇〇〇〇（以下「甲」という。）と港南区（以下「乙」という。）は、民間活動拠点活性化モデル事業（以下「モデル事業」という。）の実施について、横浜市協働推進の基本指針の理念に則り、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定書は、甲及び乙が互いに連携し、区民活動の発展及び地域コミュニティの形成を図ることを目的として実施する、地域における身近な民間活動拠点を活用した当モデル事業に関し、必要な事項を定めるものとする。

なお、当モデル事業については、甲と乙が互いを理解・尊重して双方の資源を出し合い、対等な関係のもとに協働で実施する。

（事業目的の共有）

第2条 甲及び乙は、地域における身近な活動拠点（民間活動拠点）と港南区との連携を強化し、活動拠点の一層の活性化を実現させることで、地域の区民活動の発展、地域コミュニティの形成を図るという事業目的を共有する。

（民間活動拠点の要件）

第3条 当モデル事業の対象となる民間活動拠点の要件は以下の通りとする。

- （1）主たる活動のエリアを港南区内としているNPO法人、任意の市民団体、個人、事業者が、運営している施設であること
- （2）不特定多数の区民の利用が可能であり、区民の交流の場となっている施設であること
- （3）常時オープンし、スタッフが常駐している施設であること
- （4）公益的サービスの提供等、区民活動の支援、地域コミュニティの形成に貢献している施設であること
- （5）概ね5年間は継続できる見込みがあること

（甲及び乙の役割）

第4条 甲及び乙は、それぞれ次に掲げる役割を分担し、その役割について、それぞれの責任で行うものとする。

- （1）それぞれの役割の細目については、双方の協議のもと別途定める。
- （2）役割の変更及び追加については、随時双方の協議のもと行えるものとする。

甲の役割	乙の役割
1 不特定多数の区民が集える場所（交流の場）の提供	1 市・区役所情報の提供（ラックの設置等、必要備品の提供を含む）
2 市・区役所情報、地域情報の発信	2 甲の活動の広報・PR
3 相談業務の実施	3 相談業務等への職員派遣（必要に応じ随時）
4 乙が開催する情報交換会への出席	4 甲との情報交換会の開催
5 乙が主催する講座・研修の企画、提案 アドバイス、運営協力	5 甲及び乙のネットワーク形成、連携方法についての検討会・研修の企画実施
6 その他、区民活動の発展、地域コミュニティの形成に寄与する事項	6 その他、区民活動の発展、地域コミュニティの形成に寄与する事項
（事業期間） 第5条 当モデル事業の期間は、協定書の締結の日から平成20年3月31日までとする。 （事業内容） 第6条 当モデル事業の内容は、以下の通りとする。	
甲が実施する事項	
1 市・区役所情報（チラシ等）の收受及び民間活動拠点での情報発信 （1） 甲は約0.4㎡の情報スペース（20種類程度のチラシが掲示可能なスペース）を確保し、市・区役所情報の発信を行う （2） 設置するチラシについては、乙が用意し、定期的（月1回）に甲に譲渡する （3） チラシを置くラック等の備品が必要になる場合は、甲が用意する。	
2 相談業務の実施 （1） 甲は区民活動、地域コミュニティの形成を支援する活動拠点として、区民からのさまざまな相談（区民活動、福祉、教育など）に可能な限り対応するものとする （2） 甲は相談件数、内容等の詳細を、定期的に乙に情報提供する	
3 乙が開催する情報交換会への出席 （1） 甲は情報交換会に出席し、当事業の進行状況の報告及び事業の改善点、その他区民活動の発展、地域コミュニティの形成に寄与する事項等について提案を行う （2） 情報交換会の実施は年5回とする	
4 会議場所の提供 （1） 情報交換会及び事業運営についての会議を開催する際は、甲の所有する拠点スペースの一部または全部を甲が提供することとする。なお、その場合、乙は拠点スペースの使用料を支払うものとする。	

5 乙が開催する講座・研修への協力 (1) 甲は、乙が開催する講座・研修、イベントの企画、提案アドバイス、運営等の協力を行う (2) 上記講座・研修、イベントの実施は1回とする
6 事業検証にかかる調査資料の作成・提供、及び調査検討 (1) 甲は、当モデル事業の検証に必要な調査・資料提供を行う ア 甲の基本情報（代表者名、スタッフ数、広さ、事業内容、定期的に実施している講座・イベント等の内容） イ 甲が有する民間活動拠点の月間利用者数、貸しテーブルまたは会議室の利用率 ウ 利用者からの相談件数、相談内容、甲の対応方法 エ その他、甲乙双方の協議により必要と認められるもの (2) 甲は、モデル事業の実施結果について、乙とともに調査検討を行う
7 その他、区民活動の発展、地域コミュニティの形成に寄与する事項
(経費負担) 第7条 甲が実施する第6条に記載の事業内容について、乙は予算の範囲内で経費を負担するものとする。 (モデル事業の評価) 第8条 甲及び乙は、当モデル事業について、それぞれの立場から事業の評価を実施する。また、事業実施及び評価の過程で明らかになった課題、改善点等については、甲乙が誠意をもって協議する。 なお、甲は、事業終了後1ヶ月以内に事業報告書を乙に提出しなければならない。 (モデル事業の成果) 第9条 当モデル事業の一切の成果、実績については、甲及び乙双方で共有するものとする。 (個人情報の保護) 第10条 甲と乙は別添の個人情報取扱特記事項を遵守し、個人情報を適正に取り扱わなければならない。 (協定の有効期間) 第11条 この協定書の有効期間は、協定書の締結の日から平成20年3月31日までとする。 (協定の解除) 第12条 甲及び乙は、次の各号に該当する場合には、協定を解除することができる。 (1) この協定書に定めた内容に違反した場合 (2) その他やむを得ない事由が発生した場合

(疑義事項の取扱い)

第 13 条 この協定により定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、甲及び乙は速やかに協議を行い、解決を図るものとする。

この協定の締結を証するため、協定書を 2 通作成し、それぞれ押印の上、その 1 通を保管する。

平成 20 年 10 月 30 日

甲

乙 横浜市港南区港南中央通 10-1
横浜市
港南区長 五反田 哲哉

Ⅱ章：モデル拠点からの事業報告

(1) 港南台タウンカフェ

＊ 以下は、港南台タウンカフェから提出された「平成 18 年度モデル事業に対する検証報告書」（原題＝港南台タウンカフェにおけるまちかど交流ステーション事業の検証報告書）の内容をそのまま掲載しています。

但し、フォントおよび項目番号については、本報告書の体裁に合わせて修正いたしました。

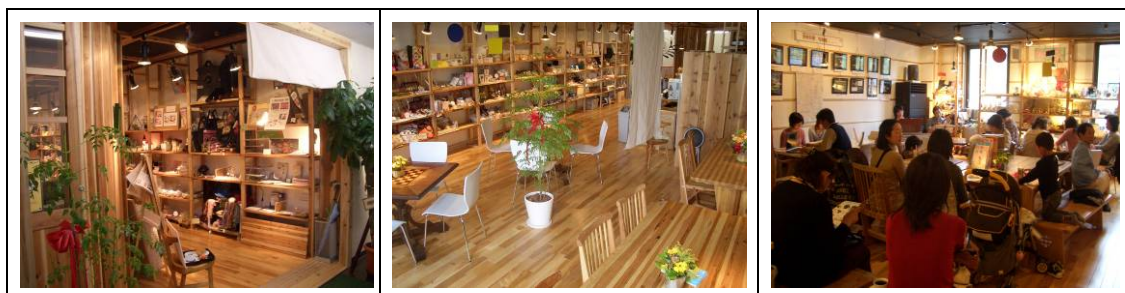


【港南台タウンカフェにおけるまちかど交流ステーション事業の検証報告書】

株式会社イータウンが横浜港南台商店会と連携して行っている非営利公益事業である港南台タウンカフェには、市民活動団体まちづくりフォーラム港南も強く関わってきました。まちづくりフォーラム港南は、その設立の動機が、港南区内の社会貢献的な市民活動を横に連携させることにあったことから、その具体的な場である港南台タウンカフェができたことを、そのミッションの新しいステップとしてとらえました。

横浜市役所においては、市民活動支援センターの各区展開を目指してきていますが、港南区の場合は、私たちの提言にも配慮しつつ、区内に民間の交流拠点が多彩に展開している実態に着眼して、単に生涯学習支援センターを改組して上大岡に区民活動支援センターを設置するにとどまらず、すでに民間の力によって存在している交流拠点と協働して永谷地区と港南台地区に「ランチ」的な位置づけを持った拠点を整備するという、市内でも画期的な事業（「まちかど交流ステーション事業」）を展開することとし、2007 年度はその実験を行いました。

港南台地区については、港南台タウンカフェが「ランチ」となり、2007 年 11 月から 2008 年 3 月にかけて、実験を行いました。以下はその検証結果を報告するものです。



ア 報告書の趣旨

実験期間は、ほんの数ヶ月と短く、タウンカフェの2年半の歴史と切り離して実験期間の成果を描き出すことはかえって一面的な分析となります。そこで開設からの、連携・交流の拠点としての機能を描き出す中で、「まちかど交流ステーション事業」の効果を検証するようにします。

市民活動の連携を図ったり、市民活動の支援をしたりといった機能を果たすに当たって、タウンカフェの場合は、その中心的機能が、いわゆる「相談」という形をとっていないことが多いことが注目されるべきです。社会貢献的な活動をしたいという市民の思いや、熱いミッションを持っている市民活動団体を受け止めて、その本当に目指すところとその具体的な実現のあり方を一緒に考えていくのがタウンカフェです。目指すものが明確になれば、専門の個別相談が有効となりますが、タウンカフェは、そこに至るまでの、アイデアや思いが形をなすところまでを支えているのが特徴です。

したがって、市民活動の、海のものとも山のものともつかぬ本当の初動期をともに考え悩んでいるのがタウンカフェのよさであり、きわめて無定型な構想段階の状態から形をなすところまでともに考えともに行動する中から、具体的な活動やイベントなどに結びついていく姿こそ、タウンカフェの醍醐味といえます。

以下こうした姿を中心に据えつつ、事例に則して報告していきます。

イ 港南台タウンカフェを取り巻く、地域のつながり

港南台タウンカフェが交流拠点としての機能を果たし得ている要因はたくさんありますが、商店会や自治会をはじめ、港南台地域の諸団体にしっかり支えていただいていることは最も重要な要因の一つです。

タウンカフェが設立される準備過程において、全3回、オープンミーティングを行いました。意外な広がりを見せました。それから、ボランティアの説明会を実施しました。

- | | | |
|-----------------|-----------------|------|
| ・オープンミーティング (1) | 2005 年 6 月 16 日 | 26 名 |
| ・オープンミーティング (2) | 2005 年 7 月 21 日 | 18 名 |
| ・オープンミーティング (3) | 2005 年 9 月 15 日 | 11 名 |
| ・ボランティア説明会 | 2005 年 9 月 13 日 | 15 名 |



また、港南台連合自治会にも、オープン前に、ボランティア募集のチラシを各戸配布していただきましたし、設立後も、キャンドルナイトのチラシを掲示板に掲示していただく、年4回の「かわら版」の各戸配付に協力してもらう、などご協力とご理解を得ています。かわら版の配布には、日野連合自治会にもご協力をいただいています。

タウンカフェの側も、連合の夏祭りには出店協力をさせていただいています。また、港南台子育て連絡会に参加するなど、地域とのつながりの構築と拡大に努めています。

こうした地域の中の諸団体・諸機関とのつながりが、港南台タウンカフェの活動の基礎的な環境をなしていると考えられます。こうしたこと抜きに単に場所があるだけでは、交流拠点として機能し得ないと思われます。

上記のような基盤の上に、タウンカフェ開設後は実に多彩なネットワークが展開してきました。以下その目立った例を、いくつかの項目に分けて見ていきます。

ウ 事務局적つながりとしてのタウンカフェ

まず、タウンカフェに事務局적役割を期待した話が持ち上がり、これが次第に発展していった事例を検討します。

この項目の事例は「相談」機能を発揮したことが比較的わかりやすい事例であると思いますが、それでも、最初からはっきりしたイメージを持った「相談」があったというよりは、話し合い、関わる中で、次第にイメージがふくらみ、また多様な人々が関わるように発展していったという側面がむしろ重要だと思います。

a. 港南台国際協力まつり



【経過】

「港南台国際協力まつり」が始まったのは、NPO と商店会との連携をテーマにした神奈川県補助事業がきっかけでした。

NPO 法人 FHCY アジア障害者パートナーズがテント村(後述)に参加するという形で、活動展示やタイの障害者施設の作品販売を実施。その後、タウンカフェでタイの写真展や商品展示、交流サロンなどを行っており、そこ

に日野養護学校の先生二人も参加されるなど拡がりを見せました。

この動きが、2006 年度から始まった港南台国際協力まつりにつながったのです。このイベントはテント村を会場として、横浜 NGO 連絡会メンバーを中心に、NGO・NPO 等 20 団体ほど参加しました。ステージで音楽、踊り、ゲーム等々があったほか、各ブースで団体紹介、各国の飲食、物販などがありました。タウンカフェは場所貸しをしたほか、商店会の事務局としての立場でかなり実働しました。また、当時タウンカフェに関わりを持ち始めていた、横浜国立大学国際共生社会過程の学生が企画から携わり、イベント当日はステージ部門を任せ総勢 15 名を超える学生ボランティアで賑やかさを演出しました。

- ・港南台テント村での連携事業 2005 年 12 月 17 日
- ・タウンカフェでの連携事業 2006 年 1 月 23 日～30 日
- ・港南台国際協力まつり 2006 年 7 月 29, 30 日、2007 年 7 月 20 日、21 日



【評価と課題】

上記のような経過で、タウンカフェが事務局的に関わることによって、様々な主体がつながっていったことは注目されます。商店会が NPO と協働するというのも比較的珍しくまた有意義だったほか、国際交流系の団体や養護学校ばかりか、やや離れた地域に位置する横浜国大の学生等が港南台地域で連携していく発端となりうる動きとなったのは、特に最初から意識したことではなく、タウンカフェというオープンな交流拠点があつての自然な発展だったといえるでしょう。これが「まちかど交流ステーション」の最も重要な機能だといえます。

FHCY はその後、小箱ショップのオーナーとして参画していただきお世話になっていますが、FHCY にとってもタウンカフェの存在は貴重です。相互にいい関係になっています。

このケースでは、国際交流分野の動きはまだ単発の動きにとどまっており、例えば外国籍市民がタウンカフェを頻繁に訪れるようにはなっていません。また、日野養護学校との交流も、その後あまりみられません。まだまだ発展の余地はあるということです。

b. キャンドルナイト



【経過】

2007 年 4 月に開催された小箱ショップのオーナーズミーティングの際、あるオーナーから、「港南区でキャンドルナイトはやらないのか」という問いかけがあつたのが発端です。いわば井戸端会議から発しているのです。

これは市民が主体的にやるものだということになり、すぐに 3 人くらいが賛同し、5 月に第 1 回目の会合を開いたのでした。そのときにはまだタウンカフェでお酒を飲んで

語り合うという程度のことを念頭に置いていました。

その後 6 月 22 日(夏至の日)の本番までの間に、6 回ほど会合を開き、メールのやり取りも頻繁に行われる中で構想がふくれあがっていきました。結果として 2 ヶ月弱の準備期間で、地元企業や商店会、市民活動団体、音楽家、地元小学校父親の会等が呼応してくれて次第にイベントとして肉付けがされ、プレイパークでの竹の切り出しから始まり、2 回のエコキャンドル作りのワークショップを経て、キャンドルナイト当日は 150 名を超え

る参加者で優雅なひと時を過ごす事ができました。その模様は JCN よこはまでも放映されました。



続く冬のキャンドルナイトは、テント村で、ハチドリの生態について等のワークショップ、タウンカフェで同日蜜蝋キャンドル作りを行うなどのプレイベントを行い、22 日当日はタウンカフェで、自然観察の森のレンジャーの方 2 人に、環境についての話をしてもらったり、地元で生産された野菜のスープを楽しみました。

- ・キャンドルナイト in 港南台 2007 2007 年 6 月 3 日、22 日 合計約 200 名
- ・キャンドルナイト in 港南台 2007 冬至 2007 年 12 月 8 日、22 日 合計約 30 名

【評価と課題】

ミーティング終了後の何気ない会話から、多様な人々が関わる大きな動きに発展していった経過は、タウンカフェの特徴をよく表しています。また、小箱ショップのオーナーの方々の豊かな発想と行動力にも注目すべきです。

タウンカフェの日常的な流れから自然なプロセスを経て、多様な主体が関わる事ができた一方で、これまで関わりの少なかった、地元企業や商店などの関わりも成果としては大きかったように思える。

c. 港南 JAZZ フェスティバル

【経過】

10 年を超える歴史のある「港南 JAZZ フェスティバル」の存続が難しくなり、タウンカフェに相談がありました。行政の補助が一昨年なくなり、企業協賛もなかなか集まらないため、2007 年度は横浜港南地域情報サイト e-town の信頼から、株式会社イータウンが事務窓口を引き受けました。今後は、港南台の地域資源をバックに、タウンカフェがお手伝いし、また、「音フェスタ」や横浜港南台商店会と連携させるべく、コーディネートを行いました。

【評価と課題】

ジャズフェスティバルを、商店会などにつなげたタウンカフェの機能は大きいといえますが、ジャズフェスティバルが安定したわけではまだなく、またタウンカフェにも事務局を担ってもり立てていくだけの余力もありません。

エ タウンカフェの貸しスペース機能から生ずる連携・交流

タウンカフェが持っている貸しスペース機能から連携・交流が生まれた事例を見ます。拠点があるからそこから自然に話が生まれる、あるいは駆け込んで話ができる、という点では以上と同様ですが、より意識的にそのスペースを利用する意図でタウンカフェに来てもらい、思い描いていた交流が実現するとか、思わぬ連携が生まれる、といった事例です。地区センターなどのように仕切られた部屋ではなく、公共空間と連続したスペースだからこそ広がっていく可能性があるのが特徴です。

a. 音楽通り in cafe

【経過】

篠笛奏者の方が、2005 年 11 月 12 日に、小箱ショップのお客さんとして、かばん製作の注文の打ち合わせに来店された際に、たまたまタウンカフェで篠笛を吹いてみたのがきっかけです。その時に、「街の先生」の方や、他の小箱オーナーの方も居合わせて、一緒に聴いたことから、気運が盛り上がり、2006 年 2 月 14 日にタウンカフェで音楽会が実現したのです。



そのあと隣接するヤマハ音楽教室の教師をしている方が、タウンカフェにコーヒーを飲みに来ていた際に、運営の相談をしている中で、「音楽通り」と命名していただき、現在の無料ライブスタイルで始まりました。この名前には、ストリート・ミュージックのように公共空間で気軽に音楽パフォーマンスができ、聞く方も気軽に聞く、というコンセプトが込められています。

その後平均して月に 2, 3 回、少なくとも 1 回は行なっています。

さらに、奏者がテント村でやろうと発案して、2006 年 6 月 10 日に実現しました。またキャンドルナイトでの演奏にもつながりました。

【評価と課題】

音楽通りというコンセプトは、公共の場としてのタウンカフェにまさにふさわしいものです。しかも、普段タウンカフェに来ない人も来て楽しんでおり、交流の輪を広げるものとなっていますし、この場を知るきっかけになっています。また、タウンカフェに定期的に足を運ぶ機会にもなっています。

演奏終了後に、演奏者とお客さんが談笑している姿も多くみられ、普通の演奏会では見られない交流の機会となっています。

b. もっと×2 交流ステーション、まちサロン in CAFE

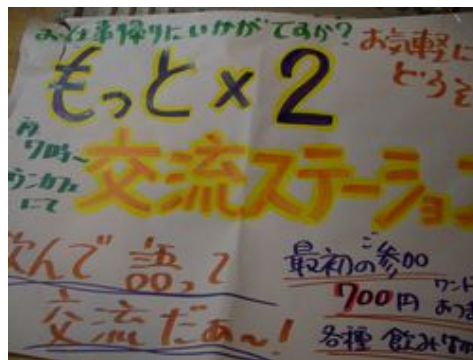
【経過】

両方とも、まちづくりフォーラム港南が主催している小規模なイベントで、新しいつながりを生むことを目指しています。

「まちサロン」は、タウンカフェ開設以前から、まちづくりフォーラム港南が時々行っていたささやかな交流イベントで、地域で活躍されている方、重要な活動をされている方などを招いてお話を伺うものです。

また、「もっと×2 交流ステーション」は、2007 年 11 月から、ほぼ毎月第 1 金曜日の夜にタウンカフェで行っている、参加自由の交流会兼飲み会です。こうした会は、実はまちづくりフォーラム港南の当初からの夢でもありました。「飲み屋」こそ人々が自由に交流できる公共の場の古典的な存在であり、また堂々と飲めるというのは民間交流拠点の利点です。

- ・ 2007 年 11 月 2 日
- ・ 2007 年 12 月 7 日
- ・ 2008 年 1 月 11 日
- ・ 2008 年 2 月 1 日
- ・ 2008 年 3 月 7 日



【評価と課題】

まちサロンは、まちづくりフォーラム港南の力量不足もあって、なかなか回数が重ねられずにいますが、もっと×2 交流ステーションは、順調に回を重ねています。参加人数は 8 名から 15 名程度と多くはありませんが、毎回必ず新しい人が参加しており、参加者相互の交流のと、まちづくりフォーラム港南としてネットワークを広げる貴重な機会となっています。

c. こうなん歴史サロン・港南デジタルアーカイブ

【経過】

港南区の歴史を区民の共有財産とすることに関心を持つ方が、タウンカフェを拠点に取り組もうとされたものです。始まりは「横浜会議」における横浜市民メディア連絡会による「市民デジタルアーカイブ」プロジェクトにあります。当初は株式会社イータウンが運営する横浜港南地域情報サイト e-town のサイト上で、地域の歴史や自然景観などのアーカイブコーナーの設置から始まり、タウンカフェのギャラリーを活用した写真展や交流サロンが生まれました。その後は区役所の生涯学習の補助事業として行われました。8 月 25

日に、まちづくりフォーラム港南のまちサロン(上記)として、下野庭の歴史を学ぶ会と写真展示を行ないました。その後も T 氏は、タウンカフェを使って、区役所の補助を得て歴史の講座を行われました。

・ 合計 5 開催 延べ参加者数約 70 名

【評価と課題】

地域の歴史を知ることへの関心は高く、まちづくりフォーラム港南のまちサロンにおいても、地域の歴史に詳しい方を招いたサロンを開催しています。タウンカフェにおいては、写真展をこれに併せることにより、より広い関心を呼ぶことができます。



d. 壁のスペースの効用（特に写真展）

【経過】

タウンカフェの最初の一年は壁のスペースをあまり有効に活用できていませんでした。その後壁スペースの有用性に気づくようになり、現在は 1 週間単位(9000 円)で貸しています。

壁掛け時計の展示販売や、FHCY のタイの障害児の書いた絵画の展示、その地域作業所の写真の展示(2006 年 1 月 24 日の前後の 1 週間)、区役所主催の桜の写真展(2007 年 6 月 1 日から 14 日まで)、「港南百景」(2007 年 3 月から断続的に 7-8 回)、など多彩に利用されてきました。この北アルプス山岳写真展は、タウンニュースに取り上げられ、初めてタウンカフェや港南台を訪れる、山好きの人などが多数来場しました。

【評価と課題】

壁に写真や絵を展示することは、タウンカフェのような拠点にとって有力な発信手段です。「音楽通り」では音による自己表現をしようとする関心が高いことが示されましたが、同様に壁スペースは、映像等による自己表現をしようとする関心が地域で高いことを示しているようです。音楽通りで古典音楽が上演されたときには、聴衆の中に普段タウンカフェには訪れない地域の住民の方々も見られました。同様に、例えば山岳写真展は、地域で大きな話題となって、タウンカフェの存在感が広がっています。

収益源としてどの程度のものとして位置づけるかはもう少し研究が必要でしょう。



e. 拠点づくり情報提供

【経過】

タウンカフェのようなコミュニティ・カフェの形をとったものでなくても、子育て支援の交流拠点や各種教室等地域の拠点や場をつくりたいという欲求は横浜市民に広く見られます。タウンカフェにもこうした相談が時々あり、情報提供や関係機関等への紹介等、相談アドバイスをを行っています。

【評価と課題】

上には「相談」と書いていますが、相談というよりは、いつものようにカウンター越しの四方山話のようなものであったのが多いのが実態です。タウンカフェの常連さんとの信頼関係でスムーズに話が進んだケースもありました。

f. 子育てマップづくり

【経過】

マップづくりは今や市民活動の重要で有力なツールです。紙媒体だけではなく、ネット上の地図情報を利用して、情報の更新を容易にする技術も実用の展望があり、情報共有、情報発信の重要な手段だからです。タウンカフェを運営するイータウンはインターネット関連企業ですから、得意分野でもあります。

事例1：

日下ケアプラザがおこなった子育てマップ「日下わくわくマップ」づくりには、イータウンが関わりましたが、仕事としてやるとお金がかかるので、まちづくりフォーラム港南が関わる形をとり、地図データを提供しました。ただ、この事例は、特にタウンカフェを舞台としたわけではなく、こちらから出かけていった関わりなので、タウンカフェの交流機能という面は薄いといえます。

事例2：

港南台子育て連絡会が行なった、「港南台子育てマップ」は、タウンカフェが深く関わっています。タウンカフェにおいてかなり頻繁にミーティングを行い、タウンカフェの斉藤が密にかかわって、横浜港南台商店会が発行する「港南台タウンカフェ通信」の別冊という位置づけで、2007年2月に発刊されました。

【評価と課題】

港南台子育て連絡会のマップづくりには前史があります。2005年5月20日、タウンカフェ開設前に、民児協の子育て部会で、タウンカフェの事業説明をさせてもらっているのです。そして、タウンカフェオープン後には、タウンカフェの斉藤は子育て連絡会のメンバーとして企画担当になっていました。

マップづくりの予算は区役所の補助事業でしたが、予算がかなり限られていた事もあり、あまりお金をかけない工夫をしました。タウンカフェ通信別冊という形にして、デザイン料などが発生しないようにした上、通信を発行している横浜港南台商店会との相互関係の

きっかけを生み出す事にもなりました。

地域における信頼関係と工夫によって、タウンカフェが公益事業に貢献できた事例として貴重です。さらに、これをきっかけに、子育て連絡会メンバーの一部は、個人的にタウンカフェの手芸の教室などにも参加するようになり、タウンカフェとのおつきあいが広がっていきました。

g. 市民活動団体、中間支援組織、行政など専門機関への場所貸し

【経過】

タウンカフェは、港南台地域にとどまらず、役所や市民セクターよこはま、横浜市市民活動支援センターなどの諸機関が、イベント、会議や懇親会に利用することもよくあります。

- ・ 2005/11/2 ひまわり交流会で港南区長来店（まちづくりフォーラム港南）
- ・ 2005/11/11 中田横浜市長が港南台タウンカフェへ（tvk 取材）
- ・ 2006/1/22 地域の枠組み研究会：港南茶論（市民セクターよこはま＝横浜会議）
- ・ 2006/1/25 第5回生活彩業フォーラム（神奈川県商工労働部） 研究会
- ・ 2006/2/9 横浜国大教育人間科学部「国際共生社会課程」視察
- ・ 2006/7/12 浜松商工会議所視察（20名）
- ・ 2006/12/6 コミュニティビジネス講座見学会（男女共同参画協会フォーラム南太田）
- ・ 2006/12/20 市民セクター運営委員会&懇親会
- ・ 2007/6/1～14 港南区桜写真展（港南区役所）
- ・ 2007/7/6 全国政令指定都市経済局課長会議視察 30名
- ・ 2007/8/1～ 法政大学公共政策インターンシップ受入 2名
- ・ 2007/9/9CB 入門講座 in 戸塚区（横浜市経済観光局主催）
- ・ 2007/9/29 横浜市民メディア連絡会定例会・懇親会開催
- ・ 2007/11/15 市商店街連合会市井事業説明来訪・取材。
- ・ 2007/11/20 横浜市旭区視察3名（ご近所の底力事業）
- ・ 2007/11/26 非営利ペイドワーク研究会ヒアリング3名
- ・ 2007/12/11 パルシステム生活協同組合：視察研修
- ・ 2008/1/21 韓国江原道寧越郡庁社会福祉課長他2名視察（横浜市経済観光局依頼）
- ・ 2008/3/4 新宿駅周辺地区協議会視察研修・意見交換会
- ・ 2008/3/10 「みんなのえんがわ池袋」としまNPO推進協議会視察
- ・ 2008/3/22CB 起業家セミナー視察受け入れ

【評価と課題】

こうしたいわばよその地域の方々の利用は、港南台地域に地域外の風を吹き込むおもしろい機会です。

オ 港南台テント村について

ここで、これまでにたびたび出てきた「テント村」について述べておきましょう。



【経過】

テント村は、横浜港南台商店会が、会員の方から提供されている JR 港南台駅前の空き地（約 200 坪）において、月に一度開催してきたフリーマーケットです。タウンカフェ事業開始とともに株式会社イータウンが港南台商店会から受託した非営利事業の一つで、タウンカフェはその事務局的功能を担うほか、これまでの第 4 土曜日のフリマに加えて、月にさらに一度でテント村を開催するようになりました。

月 1 回の商店会主催のテント村以外は、タウンカフェが企画から運営まで任されて行うことになっており、その第 1 回目が、2005 年 11 月 5 日に行われました。中越地震の支援の炊き出しを、長岡市の営業者からなるボランティア団体である「えちごそうる」、NPO 法人 NORA が関わっている神奈川地モノ市、高校生・大学生の活動団体「ひな」なども参加して行いました。

その後、2006 年 5 月にボラティア、商店会、スタッフが 15 名ほど参加して、「テント村企画会議」を行い、今後のあり方を検討しました。これに基づいて、2006 年 6 月 10 日に音楽通りとオープンカフェ(まちづくりフォーラム港南運営、ひな協力)を行なったのが、タウンカフェ主催のテント村の第 2 回目です。

その間に、2005 年 12 月 17 日に、FHCY がテント村の場所を使って、NPO 活動紹介と作品販売をやっており、これも一種のテント村であるといえます。

以降、2006 年 9 月 9 日第 3 回目に、オープンカフェ、音楽通り、ジャズライブ、2006 年 10 月 7 日第 4 回目として、タウンカフェ 1 周年を前に、鉄道イベント「プラレール in テント村」、2006 年 11 月 11 日第 5 回目として、港南台こどもウォークラリーを行なう、など実績を積んできています。

2007 年度 4 月からは、テント村は正式に月 2 回の態勢とすることを決め、商店会主催のものとタウンカフェ運営のものを交互に行なってきました(1, 2, 7, 8 月は休み)。第 2 土曜がタウンカフェ運営の定例日です。中身は、オープンカフェとキッズコーナー(ボランティア手作りのこどもの遊びコーナー)、出張小箱ショップ、など、地域の様々な方々の協力のもとに行われています。

【評価と課題】

テント村は、タウンカフェにとっては、いわばタウンカフェの野外の延長部分です。タ

ウンカフェを通じてと同様に、学生や市民、あるいはこれまであまり関わりのなかった人
たちなど、テント村を通じていろいろな人がかかわるようになっていきます。

また、商店会が育ててこられたテント村の、新しい局面が開かれたともいえます。これ
まではリサイクルフリマが中心の場でしたが、憩いの場としての性格が生まれ、例えばこ
どもが大学生のボランティア＝お兄ちゃんたちと遊ぶ場などになっています。

また、この場で商店会の「かわら版」配布を行うなど、情報発信の場にもなっています。

駅前の文字通り一等地ですが、まだ月2回しか使えていません。現在の主体の力量では
これで精一杯ですが、今後さらに輪を広げて工夫をすると、新しい展開が生まれる余地も
ありそうです。



カ タウンカフェの運営に関わる多様な人々

ここでは、タウンカフェの運営に関わる人々、すなわち運営主体を分析してみます。多
彩な交流・連携機能を発揮するタウンカフェはどんな人たちによって支えられているので
しょうか、またその質はどのように育成され保障されているのでしょうか。

実は、この人々の力によってタウンカフェが成り立っていると同時に、この人々の活躍
そのものがタウンカフェのミッションの実現としての意味も持っているようです。

a. スタッフ

カウンターの向こうにいて、レジを打ったり応対をしたりしているスタッフは、タウン
カフェの基幹的な人材であり、その業務を通じて、自然に交流と連携を実現しています。
これまでに紹介してきた様々な動きは、スタッフの何気ない声掛けやカウンター越しの世
間話などがあってはじめて実現したものが多いのです。

こうした人材を得られている事実そのものが、タウンカフェという存在の魅力を物語っ
ています。

- ・常勤スタッフ 2名
- ・非常勤スタッフ 5名

b. ボランティアスタッフ

ボランティアのスタッフは約 20 名が登録。高校生から
70代まで幅広い世代のメンバーで構成されています。中
でも学生などの若い人がたくさん関わってきています。こ



うした人たちは、タウンカフェの運営になくてはならない存在であると同時に、若い人たちのセンスがタウンカフェに生かされるという点でも不可欠です。

ボランティア団体「ひな」のメンバーもその一部です。「ひな」は、県立南陵高校の福祉部の生徒たちの集団が発展したもので、はじめは「しゃべり場」と称して、港南区の福祉活動拠点で活動していました。タウンカフェの斉藤がひなに取材に行ったのがきっかけで関係ができ、上記えちごそうるの支援などで活動に関わるようになりました。

また、2006 年後半からは、主体的に事業に関わる制度として、インターンシップ制度を実施。(詳細は後述)

c. 小箱ショップのオーナーの方々

小箱ショップのオーナーの方々は、月々の賃料を払って自分の製品を委託販売している単なる顧客ではありません。タウンカフェの運営に様々に貢献してくださる人材の宝庫です。当初はタウンカフェの自治的な運営のためのボランティアをやっていたケースさえありました。しかしこれは当初の半年くらいでした。おそらく学生のボランティアなども増えて、態勢が安定したからでしょう。



「オーナーズ・ミーティング」は年 8 回～10 回程度。小箱の運営方法を一緒に考えたり、交流したりする時間になっています。これを通じてオーナー同士の交流も盛んになっています。オーナー同士が連携して新しい製品開発にいたっているケースもあります。

テント村では、出張小箱ショップを年に 5 回程度やっています。

高島屋の「一坪ショップ」にも参加されています(オーナー 21 名が参加)。

キャンドルナイトにも参加していただきました。すでに述べたように、そもそもキャンドルナイトが始まったきっかけは、小箱のオーナーでした。

また、「小箱スクエア」と称して、カフェサロンで作品の展示・販売やプチ教室等も頻繁に行われており、これはタウンカフェの日常的な交流の風景をなしています。オーナーにとっては、お客さんと触れ合える場、お客さんと直接知りあう機会であり、タウンカフェの交流・連携機能の一つといえます。例えば、共同オフィス入居団体である NPO 法人「よこはま住環境ワークス」という団体の、独居老人の身辺整理を支援する活動で、そこで出てくる処理に困る着物の帯などをオーナーが作品として製作するようになったケースもあります。また、小箱ショップのオーナーが、日常的な相談を通じて、結果として横浜市民共同オフィスに入居したケースもあり(「コミュニティ・フィットネス協会」、タウンカフェを通じて世界が広がっていった結果と思われます。

このほか、2006 年 9 月 30 日、金沢文庫芸術祭という市民活動(アーティストの集まり)に、オーナー 8 人で、タウンカフェとして出店した実績があります。

d. 外部団体の人材育成プログラムの受け入れ ～「若者サポートステーション」、 「市民活動支援センター」、「大学」など

法政大学の「公共政策インターンシップ」などを通じた学生ボランティア、横浜国立大学等の学生ボランティア、横浜市民活動支援センターの行なっている大学生対象のボランティア体験事業「夏塾」のボランティアなど、一定の人材育成プログラムや教育プログラムから派遣されてくる人たちも、タウンカフェとして積極的に受け入れています。また夏塾では、運営側からプログラムについて意見やアドバイスを求められることもあります。

「若者サポートステーション」は、ニート・引きこもりの青年の支援をしているものです。タウンカフェオープン直後の 2005 年 10 月に、「ヤングジョブスポットよこはま」の職場見学があり、タウンカフェに 8 人くらい見学に来られました。2006 年 4 月にこのスポットは閉鎖されて、その後「よこはま若者サポートステーション」が替わりに立ち上がり、NPO 法人「ユースポートよこはま」が管理運営を受託しました。そして若者の研修をタウンカフェで受入れてほしいとの要望があり、2007 年 2 月から順次 4 人ほど受入れました。

このほか NPO 法人「コロンブス・アカデミー」からの依頼で、インターンを受入れたことがあります(2007 年 2 月)。「若者チャレンジイベント」という厚労省の事業としての位置づけでしたが、予算がなく無償での協力でした。

2007 年 12 月 17 日に、若者サポートステーション 1 周年交流会を行ない、活動報告などのビデオを上映しました。(その収録は 11 月 20 日にタウンカフェで行いました)

e. 人材育成の仕組みの整備

タウンカフェ自身でも、より意識的に内部研修、企画会議を通じて、活動にかかわる力を育成しています。

ボランティア・スタッフの研修・交流は年間 2-3 回程度実施しています。これまでの実績は以下のとおりです。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ・ 2007 年 1 月 14 日 | スタッフ・ボラ交流研修会 |
| ・ 2007 年 2 月 10 日 | ボランティア交流会 |
| ・ 2007 年 8 月 4 日 | 市民レポーター養成講座 7 名参加 |
| ・ 2007 年 9 月 23 日、24 日 | さわやか港南にてスタッフ研修合宿 |
| ・ 2007 年 9 月 29 日 | インターン報告会 |
| ・ 2007 年 10 月 19 日 | 夏塾事後研修会(斉藤・平野) |
| ・ 2007 年 12 月 4 日 | ボランティアスタッフ勉強会(ホームページ更新) |
| ・ 2008 年 1 月 14 日 | スタッフボランティア交流研修会 |

このほか、学生に関しては、2006 年 7 月から、タウンカフェインターン制度を整備して、ボランティアとインターンとの切り分けを明確にしました。交通費実費と研究費を支給し、そのかわり週 3 コマの活動参加を原則として、地域活動に責任をもって取り組む、実戦形式の学び・研究として、タウンカフェへの貢献を行なってもらうことにしました。財政的負担にはなりますが、彼ら・彼女らの活力は大きな糧です。

これまで延べ 4 名の学生が参加しています。



キ 対外発信

タウンカフェは、コミュニティ・カフェとして持続可能なモデルを提示している点で、国内でも希有な存在といえましょう。数あるコミュニティ・カフェは、コミュニティ志向を重視すれば、行政からの補助金が切れてしまうと存続できなくなり、カフェ志向を徹底して持続を目指せば、単なる商業カフェになってしまい、なかなか持続しません。港南台タウンカフェは、両方向のほどよい中間の着地点を港南台というすばらしい地域に見いだしているようです。

したがって、市内でもまた全国的にも注目される存在になっており、視察や講演、イベント参加の依頼が数多く飛び込んできています。

●主な視察研修受け入れ

- ・ 2006/7/12 浜松商工会議所視察（20 名）
- ・ 2006/8/22 視察（旭区左近山団地）
- ・ 2006/9/16 視察株式会社 明天（福島県会津若松市）
- ・ 2006/10/13 視察（NPO 法人アンガージュマン・よこすか）
- ・ 2006/11/22 視察（慶應義塾大学大江研究室徳村氏、ふらっとステーション）
- ・ 2006/11/28 東京都荒川区商店街連合会視察 35 名
- ・ 2007/5/18 東京理科大学理工学研究科初見研究室 視察 4 名
- ・ 2007/9/6 さいたま市宮原三丁目商工会視察 12 名
- ・ 2007/12/1 CBS 現場訪問 15 名（コミュニティビジネス認定アドバイザー）
- ・ 2008/1/26 まちづくり支援工房世田谷社 視察
- ・ 2008/2/21 CB すぎなみ視察研修
- ・ 2008/3/27 横浜市都市整備局戸塚視察
- ・ 2008/3/28 富士ゼロックス株式会社視察
- ・ 2008/3/31 浜松市役所商工部都心政策課視察

●主な講演事例紹介など

- ・ 2006/11/9 茅ヶ崎まち・未来塾にて事例紹介（茅ヶ崎商工会議所）
- ・ 2006/11/22 NPO 法人よこはま保全センターで講演
- ・ 2006/12/14 横浜国大カフェトークで講演

- ・2007/2/8 横浜市市民活動共同オフィス 広報研究会講師
- ・2007/3/19 神奈川県地域福祉コーディネーター推進フォーラムにて事例紹介
- ・2007/9/20 神奈川県商業施設士会総会基調講演
- ・2007/11/14 WE21 ジャパン市民メディア講座（講師）
- ・2007/11/14 横浜市空き家活用勉強会講演（横浜市まちづくり調整局主催）
- ・2007/12/8 港南区民会議定例会にて発表（斉藤）
- ・2007/12/15 群馬県生涯学習支援センター講演
- ・2008/1/26 杉並区シンポジウムパネリスト
- ・2008/3/6 若者リバイバルセミナーパネリスト
- ・2008/3/15 戸塚区ボランティアフォーラム講演



ク 区役所との協働の検証と 2008 年度に向けた要望

a. 区役所との協働での変化

2007 年度後半の区役所との協働による「まちかど交流ステーション事業」の効果については、まだ実験期間が短く、また地域の人にも事業が十分知られるにいたっていないので、目につく効果はあまりはっきりしませんでした。

ただ、スタッフの意識には目立った変化がありました。業務日誌を付けるようになり、「市民活動支援」について話し合いを持って一定の理解を持つようになりました。今まで何気なくカウンター越しにしゃべっていたことが、市民活動支援のような意義を持っていたということが認識されたのです。この結果、ボランティアとの協力関係もさらに効果的なものになっています。

また、今回の事業で新たに設置されたチラシラックとそこに収納されたチラシ類は、手に取ってみる人も多く、市民活動関連の情報提供の場として機能している様子がうかがわれます。タウンカフェに来店する人の幅広い層を考えれば、スタッフによる自然な声掛けとも相俟って、こうしたことの効果は相当に大きいと思われます。

b. 2008 度に向けた望ましい政策的対応

区役所におかれては、この「まちかど交流ステーション事業」を継続、発展していかれることを望みます。

事業の効果も、数ヶ月程度の実験の中でまずまずの見通しが見えてきていますし、何といても一弱小企業が行っている非営利事業がこれほどまでの効果を２年半の間に生んでいることに、行政として着眼していただきたいと思います。港南区における市民活動支援機能の一端を担うという意義とともに、すでに述べた、持続可能なコミュニティ・カフェのモデルを提示しているという普遍的な意義を生かしていくことは重要です。

■港南台タウンカフェ概要

所在地	横浜市港南区港南台 4-17-22 キタミビル 2F JR 港南台駅徒歩約 2 分
運営	株式会社イータウン 横浜港南台商店会、まちづくりフォーラム港南が港南台タウンカフェ内に事務局を設置
面積	72.73 m ² (約 22 坪)
開設	2005 年 10 月 15 日
事業内容	・ 小箱ショップ ・ カフェサロン ・ 貸しスペース ・ 貸しギャラリー ・ 情報発信 ➢ ウォールポケット (ちらしラック) ➢ 港南台タウンカフェ通信 (かわら版) ➢ 横浜港南地域情報サイト e-town (web) 運営 ・ 地域交流コーディネート・事務局機能イベント企画運営 ➢ 港南台テント村 ➢ 音楽通り inCAFE ➢ もっと×2 交流ステーション ➢ キャンドルナイト in 港南台 ➢ まちサロン inCAFE ➢ など ・ タウンシェフ養成 (人材育成)
スタッフ	常勤スタッフ 2 名 非常勤スタッフ 5 名 ボランティアスタッフ 18 名 インターンスタッフ 2 名

※この報告書は、まちづくりフォーラム港南の協力により作成されました。

(2) さわやか港南

ア 活動拠点の概要

“地域の茶の間・まちの相談室”たらしとする「さわやか港南」は、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう“困った時はお互い様”という助け合いの精神で、サポートする側もされる側も誰もが対等な会員制の会です。

買い物、洗濯、食事作り、掃除、庭木の世話、草むしり、留守番、話し相手、産前産後のお世話、一時保育、ペットの世話、その他いろいろの、いわば在宅支援サービスから出発しました。

一戸建て住宅を活動場所にしてから、多様なサークルへの活動場所の提供、たまり場「ちょいさわ」の開催など、“まちの居場所”(＝活動拠点)としての性格も強まりました。「ヨコハマ市民まち普請事業」で選考された結果、平成 19 年度末には多目的スペース(相談ルーム)が増築され、地域交流拠点としてさらに充実することになります。

「ちょいさわ」への参加者から聞かれる声を拾ってみました。

- ・行きたいときだけ行かれるのでいい。お茶をして話したり、トランプで遊んだりしている。
- ・とてもしやすい。
- ・さわやか港南にいる人たちはとても話しやすい。
- ・家から近く、昔から知っている人がいるので安心。

■会員動向

	賛助会員	協力会員	利用会員	合計
18 年 3 月末	6 1	4 0	9 5	1 9 6
19 年 3 月末	6 9	4 4	1 2 5	2 3 8
20 年 3 月末	7 5	4 8	1 5 9	2 8 2

■在宅支援サービスの利用状況（活動内容と活動時間）

活動内容	18年度1月期		19年度1月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前年比
生活支援	843.0	24.3	1010.5	27.7	119.9
庭仕事	741.5	21.4	984.0	27.0	132.7
家事	1122.5	32.4	951.0	26.1	84.7
介助	521.5	15.0	248.0	6.8	47.6
子育て支援	192.0	5.5	154.0	4.2	80.2
その他	47.0	1.4	297.5	8.2	633.0
合計	3467.5	100	3645.0	100	105.1

■拠点の様子



事務所



会合の様子

■平成 19 年度事業活動計画（案）

18年度は下期より雑学講座の充実を図り、11月以降毎月実施し会員以外の地域住民の皆様にもご参加戴きご好評をいただきました。今年は更に充実を図り、従来の防災・防犯講和や救急・救命講座等も取り込み年間計画を作り実施したい。特に「ヨコハマまち普請事業」による相談ルームの開設を控え、安全・安心・健康などに関するテーマの講演を実施してゆきたいと思っております。但し、相談ルームの工事の進捗に合わせて企画を考える事とします。

特別行事では、昨年から開始した「さわやか園芸」の植付け・収穫を会の行事としてゆきたい。これには「ちよいさわ」や「青少年学級」の子供たちの参加も継続してゆく計画です。

月	総 会	理事会	監 査	定例会議	特 別 行 事	研 修 会 ・ な ど
4月			10日(火)	16日(月)	さわやか園芸植付け	雑学講座 (そば打ち講座)
5月				15日(火)	さわやかランチ	
6月	29日(金)			15日(金)	じゃが芋収穫	
7月				17日(火)	枝豆収穫	雑学講座 (救急・救命講習会)
8月				15日(水)	盆踊り参加バザー ワイワイ合宿	
9月		28日(金)		14日(金)	さわやかランチ	雑学講座
10月				15日(月)	さつま芋収穫	雑学講座 (成人病について)
11月				15日(木)	みかん狩り	雑学講座
12月		21日(金)		14日(金)	洋服パーゲン もちつき大会	雑学講座
1月				15日(火)	鏡開き	雑学講座
2月				15日(金)	さわやかランチ	雑学講座
3月		21日(金)		14日(金)		雑学講座
セン タ ー 活 動 ・ 他	・たまり場「ちよいさわ」(港南区社会福祉協議会との共同事業)年間47回開催予定。屋外活動も継続する。 ・青少年学級は原則として毎週月曜日に開催。 ・サークル活動 毎週1回～3回開催予定 碁友会(囲碁教室)、健康麻雀(麻雀教室)、パソコン教室 毎月1～2回開催予定 気功教室、謡曲教室、 古文書に親しむ会、平家物語を読む会 ・託児…利用者からの要望により随時					定例会議は活動者と事務局との会議で、毎月1回開催し、日々の活動の問題点などの解決と情報の共有化を図ってゆきます。

以上は「さわやか港南」の事務所・会議室を利用した活動であります。

この他、本来の生活支援の活動は年間4200時間を越える見通しであります。

相談ルームの開設もあり、活動の拠点として今年は更に充実を図りたいと思っております。

イ まちかど交流ステーションの基本機能に該当する事業

a. 活動場所の提供

1年間の部屋貸し回数は190回を数えています。さらに共同事業として実施しているたまり場提供事業「ちょいさわ」も45回を数えています。「青年学級」（毎週月曜日10:00～）や「寺子屋」（毎週木曜日17:00～）は「ちょいさわ」から発展的に開講したものです。

部屋数の多さと広さ（1階は8畳と6畳＝14畳としても利用可、2階は8畳と6畳）と寝泊まりができることが「さわやか港南」の特徴です。青少年や区内市民活動団体・サークルの合宿場所としても提供しています。

平成19年度末の多目的スペース（相談ルーム）の開設によって貸せる部屋に余裕が生まれることなどから、次年度以降さらに利用回数が増加することが予想されます。

■サークル活動（平成18年4月～19年3月）

サークル名	利用回数	たまり場「ちょいさわ」
碁友会(囲碁教室)	46	18年度開催(17年4月～18年3月) 回数 45回 参加者 285名(317) 対象者 139名(130) 協力者 146名(187) 開催日時 第一・第三水曜日 16:00～18:00 第二・第三土曜日 10:30～16:00
健康麻雀(麻雀教室)	34	
気功教室	15	
パソコン教室	9	
茜会(謡曲教室)	7	
古文書に親しむ会	12	
平家物語を読む会	9	
月組・星組麻雀	39	
合宿	3	
雑学講座	6	
その他(ランチ・バザー等)	10	
合 計	190	



さわやか園芸



ワイワイ合宿



木工教室



■多目的スペース（相談ルーム）の増築を知らせるニュース

（神奈川新聞、平成20年3月18日）

08年（平成20年）3月18日 火曜日

地域 (26)

コミュニティが生まれる
ハマの市民協働

▷▷1

地域の交流拠点に

在宅支援

「気軽に立ち寄れて、利用者のよりどころになればいいですね」。横浜市港南区日限山で在宅支援サービスを行う市民ボランティア団体「さわやか港南」の川辺裕子副理事長(56)は、今月末に控えた多目的スペースの完成を心待ちにしている。

さわやか港南は、二〇〇一年七月に設立された。主に高齢者や障害者を対象に、家事や送迎などのサービスを行う。会員は日限山地区を中心に約二百五十人を数える。

多目的スペースは、同団体は〇三年から拠点にする一戸建て家屋に増築する。六畳程度の広さで、利用者の面会相談や住民同士の交流の場として使われる。利便性向上のため、足の不自由な人向けに地面と二階床とを結ぶリフトも設置する。

整備の背景には、日限山地区に高齢者が多いという事情がある。市によると、港南区の高齢化率は〇七年九月三十日時点で19・6%。同地区に限ると24・3%に達する。実際、同団体には高齢者からのようす相談も多く、自由に集える居場所の整備は急務だった。これをサポートしたのが横浜市。住民自らまちづくりのアイデアを提案する「ヨコハマ市民まち普請事業」で〇六年度に事業化が決まり、建築費用などに補助金五百万円が充てられる。

横浜市内で市民協働事業が本格化して約五年。地域に必要な施設や標識、広場などを、行政と市民団体が協力して整備するケースが増

地区に高齢者が多いという事情がある。市によると、港南区の高齢化率は〇七年九月三十日時点で19・6%。同地区に限ると24・3%に達する。実際、同団体には高齢者からのようす相談も多く、自由に集える居場所の整備は急務だった。これをサポートしたのが横浜市。住民自らまちづくりのアイデアを提案する「ヨコハマ市民まち普請事業」で〇六年度に事業化が決まり、建築費用などに補助金五百万円が充てられる。

同団体に福祉情報などを提供し、連携を図っている港南区役所も「地域住民の交流拠点になってほしい」と期待する。

目指すのは「出入り、持

えてきた。整備を通じてコミュニティの姿を追われる地域住民のきずなやう。(佐藤 大輔)



多目的スペースなどの工事が進む「さわやか港南」

まち普請事業による相談ルームの開設とリフトの設置



地域の小学生も押した「約束手形」。



昇降式リフトの設置

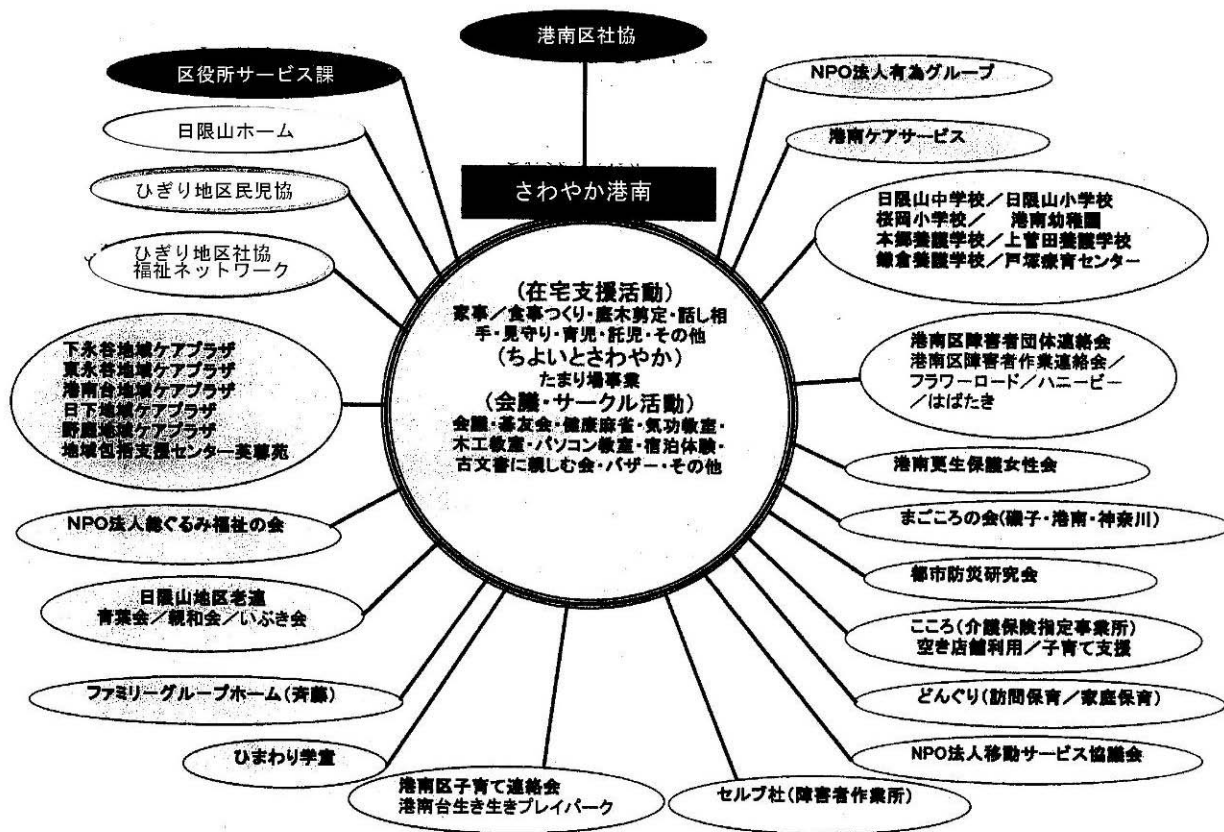


相談ルーム

b. 人的ネットワークの形成

「さわやか港南」は、その活動を通じて、地域の様々な活動グループ、地域組織、地域施設等とのネットワークを形成しています。

■「さわやか港南」活動関連図



地域福祉活動の勉強会



小学校での防災フェア



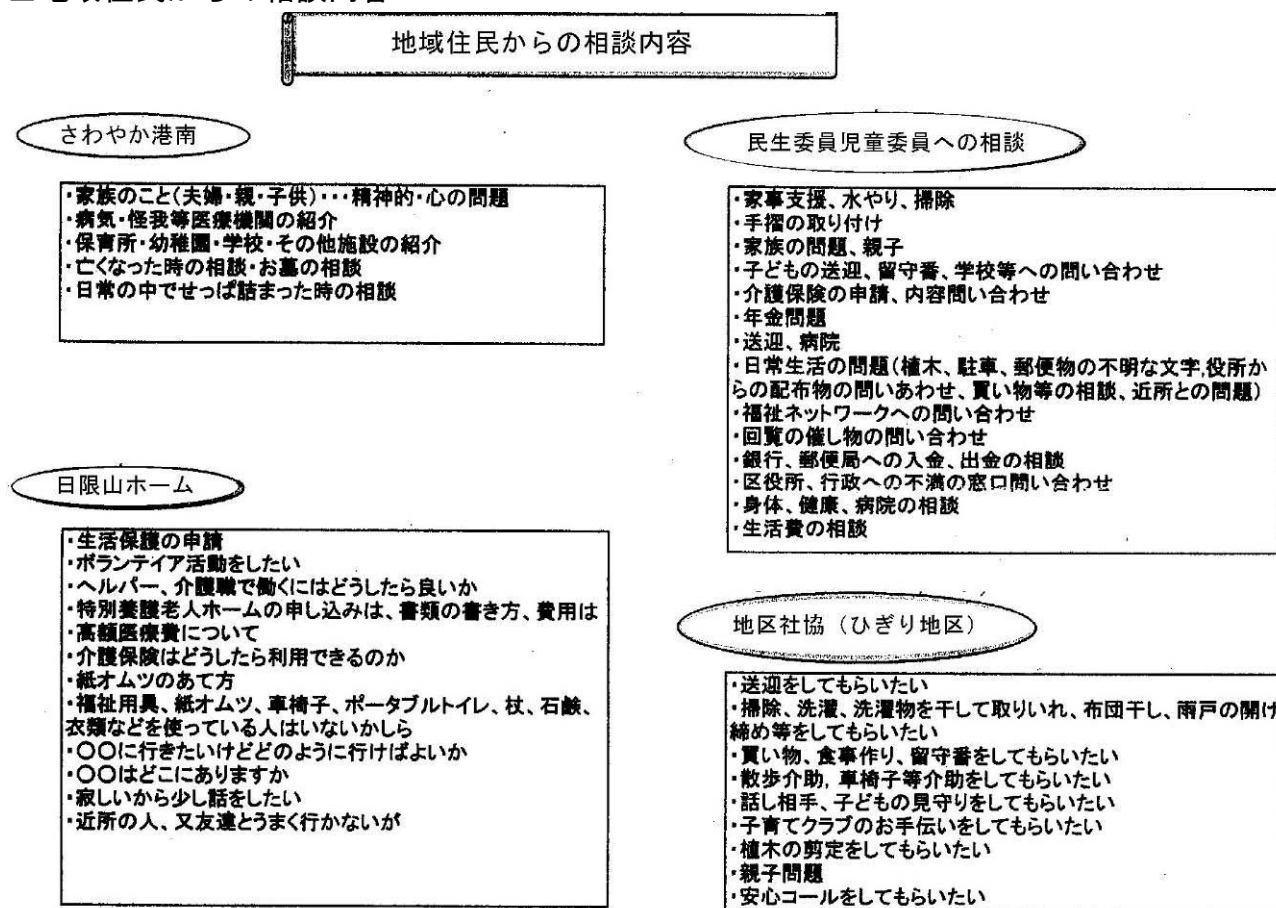
c. 相談・コーディネート

地区住民からの相談内容を地域施設や組織別に抽出すると以下ようになります。さわやか港南への相談の特徴として、精神的・心の問題や冠婚葬祭に関する事など、比較的深刻なものが多いようです。

また、区役所からの紹介で相談にくる方も少なくありません。

「さわやか港南」では、モデル事業に採用されて以来、次ページのような相談カードを作成し対応にあたっています。その結果、以下のような相談が寄せられました。

■地域住民からの相談内容



■まちのよろず相談所を目指して



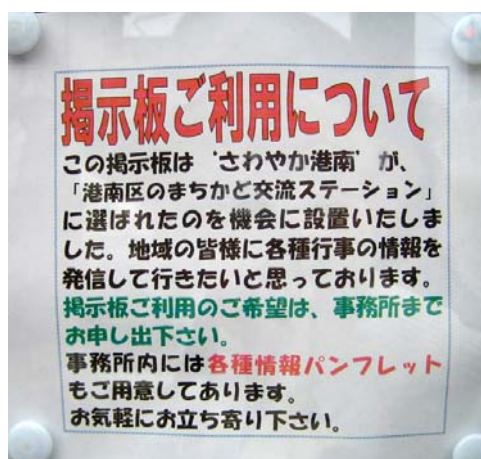
■相談内容の例と対応方向一覧

No	相談者概要	相談内容	対応方法	備考
01	日時：19/12/ 住所：上大岡 性別：女 年代：70 歳代 所属：個人 受付：	・ マッサージに通いたいが家まで連れて来て、一緒に行って、また送ってほしい。(タクシー利用の付き添い)	・ 拠点で対応、解決 ・ 当会に入会し、現在週一回、マッサージ（リハビリ）に付き添っている	・ 区役所からの紹介。娘さんからの電話
02	日時：20/03/ 住所：下永谷 性別：男、女 年代：80 歳代 所属：個人 受付：電話	・ 家事 ・ 病院の付き添い	・ 拠点で対応、解決 ・ 当会の会員になる予定 ・ 現在は介護保険で足りているが、今後、たすけあいの団体協力が必要	・ 下永谷ケアプラザ、ケアマネさんからの紹介
03	日時：20/03/04 住所：上永谷 性別：女 年代：40 歳代 所属：個人 受付：面談、電話	・ ご主人のリストラ、子ども（兄弟）の兄が障害のある弟に暴力、自身が鬱病。家事支援と話し相手になってほしい等。 ・ すぐに家に来てほしい	・ 拠点で対応、解決 ・ 当会でその日の内に訪問し、家事支援を行う ・ しばらく、毎日、1.5h～2.0h きてほしい	・ 区役所からの紹介 ・ 緊急を要したので、早く動きました。
04	日時：20/03/24 住所：下永谷 性別：女 年代：60 歳代 所属：個人 受付：電話	・ ご主人が多発性神経アミロイド、大腸ガンの手術も。右目失明、寝たきりだが意識ははっきりしている。言葉は少し話すことはできる ・ 奥様のご両親と同居。お父様が脳梗塞、お母様がぎっくり腰になられた ・ 家事支援、病院の送迎の依頼	・ 拠点で対応、解決	・ 下永谷ケアプラザ、ケアマネさんからの電話

d. 情報収集・提供

今回、本事業で初めてチラシラックを設置し、区内の市民活動・生涯学習団体の情報、街の先生などの人材情報などの他、福祉、子育てといった行政発行のもの、地域での催しや地域発行の情報誌などを配架しました。

また、拠点の外（入り口前）にも掲示板とチラシラックを設置。通行人が立ち止まって、自由にチラシを手にとることができるようにしました。なお、外の掲示物を見て、拠点内に立ち寄る方も増加してきており、ラック等を設置した効果が出ています。



丸山台商店会が発行する情報誌「はあとふるたうん丸山台」に「街 地元再発見！港南百景」というレポートを担当しています。（次ページを参照）

街

地元再発見！港南百景

港南百景プロジェクト

●日限地藏尊



丸山台の隣、日限山の町名の由来となったのが日限地藏です。日を限って願をかけると必ず成就すると言われ、明治時代から多くの信者を集めてきました。八木(ばちき)山福徳院として開創されたのが慶応元年(1865)7月24日とされています。

この地に住んでおられた飯島勘次郎翁が持病の癪を治す為に信仰して功德の有った、静岡県三島市の蓮馨寺から地藏尊の分身を勧請して、日限地藏尊を本尊として祀ったのが始まりです。

昭和28年7月1日高野山真言宗金剛峯寺の末寺となり現在に至っております。

昭和40年代に入り住宅開発が本格化するまでは、「横浜の高野山」と呼ばれ、深山幽谷のたたずまいをおもわせる閑寂な山中にあって、毎月40の日には参詣の人々は手弁当で一日の行楽を兼ねて随掛けにお詣りされたとされています。日限地藏の裏の小道は鎌倉古道の一つ、早駆けの道であると言われてい

●日限山バス停前、または市営地下鉄下永谷駅徒歩7分
横浜市港南区日限山1-67-30 電話 045-821-1717



■このレポートは「さわやか港南」が担当しました！

さわやか港南とは、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう「困ったときはお互い様」をモットーに活動している団体です。地域が必要としている買い物、洗濯、掃除、病後の送迎、庭木の世話、留守番、産前産後のお世話、一時保育、犬の散歩などどんな事

●上永谷駅前の花壇



上永谷駅前には、丸山台小学校生による美しい花壇があります。毎日の水遣りは、花壇の前の横浜JIAの皆さんがお世話をしています。花壇に美しい花が咲き続けるためには、毎日の水遣りや手入れが大切です。小学生と地域の人達の協力により、美しい花が、私達を和ませてくれます。

●永谷天満宮



永谷天満宮の「夏越の祓い」の際の「茅の輪くぐり」の「茅の輪」です。毎年、6月30日に行われる、「伝統的な祭り行事」です。暑い夏を迎えるにあたり、疫病等の病にかからずに、無事に夏を過ごせるように、祈った太古以来の伝統的な行事です。

●上永谷駅徒歩3分
平成3年横浜市の地域史跡に指定

丸山台商店会の活動紹介！

子どもたちの街灯



平成19年度から丸山台小学校の全児童の絵を街灯で電飾する催し事を若干スケールアップして実施します。これは会員店舗(社)のお得意先や知人で、児童・園児の絵を出したい方がいたら、事務局(TEL. 045-5639)へ申し出てもらう仕組みです。



丸山台自治会の夏祭り



毎年夏に丸山台公園で開催される、丸山台自治会夏祭り。商店会では、子どもたちに大人気の輪投げやドリンクの景品などで協力しています。

丸山台商店会の看板

イトーヨーカドー北側壁面に「丸山台商店街大案内図」を平成19年度には着手できる運びとなりました。加盟店のみを掲出し、業種や特色をも記したユニークで、お客様に分かりやすい案内図にするつもりです。ご期待下さい。

●貞昌院



永谷天満宮の隣にある曹洞宗天神山貞昌院天照寺です。本堂の中には明治19年の火災を免れた寺の本尊十一面観音菩薩と立派な彫刻の欄間があります。

●平戸・永谷川の自然



区内中央を西へ流れる馬洗川の下流約2.5kmの平戸・永谷川は地域の平戸・永谷川水辺愛護会の皆さんの活動によって、自然が甦ってきています。又河川敷周辺の整備も進んでいます。写真は沿道の公園・花壇です。太陽光発電の街灯も設置されています。



山門を入ると五輪塔、2基の馬頭観音等と六地藏と二体の小さな地藏があります。

港南百景プロジェクト

このプロジェクトは、横浜市民メディア連絡会の市民デジタルアーカイブ研究の一環として始まったもので、自分たちの街の歴史の人の流れと文化祭、伝説の経緯をふまえた住民の記憶や記録を、テキストと映像等の資料として共有することを目的としています。

ウ モデル事業の評価と課題

a. 相談・コーディネート

- 本事業をきっかけに、相談内容・さわやか港南の対応方法などを記載する相談カードを導入し、内容及び対応方法などの整理を行いました。
- 日頃の業務では、関係機関・施設と連携しながら、相談対応、情報の提供や紹介などを行っています。現段階においては、市民活動に関する相談は少ないものの、永年培ってきたノウハウや関係機関等とのネットワークについては、市民活動に関する相談業務にも活用できるのではないかと考えています。
- また、さわやか港南が相談先を紹介するばかりでなく、区役所や地域ケアプラザなど、周辺の関係機関・施設等による紹介で、さわやか港南に相談してくる方も少なくないことがわかりました。こうしたことから、地域にある関係機関などとの信頼関係、結びつきの強さが、さわやか港南の特徴ではないかと考えます。

b. 情報収集・提供

- 生涯学習支援センターや港南区役所にあるさまざまな種類のチラシ等を、地域に身近なところで配架することができました。
- 本事業によって設置した掲示板が、施設の存在をアピールする上で大いに役立っています。ちょうど街角に設置できたこともあり、まちを行き交う人が立ち止まって掲示内容をご覧になっている姿を多く目にします。それがきっかけで、スタッフとのコミュニケーションも生まれています。
- また、地域の情報等を随時区役所に情報提供することができ、情報の交流が生まれました。

c. その他

- 今回はモデル事業で実施期間も短かいものでしたが、今後、ブランチになる拠点は、行政との協働という部分で、地域からより信頼感を得ることができるのではないかと期待しています。
さらに、行政との密な情報交換、出前講座の開催などが実現すると、地域、行政双方にとって良いと思います。

Ⅲ章：情報交換会

(1) 情報交換会の議事要旨

ア 第1回情報交換会

○日時：平成19年8月8日（水）13：30～15：30

○場所：港南台タウンカフェ

○出席：港南台タウンカフェ 齊藤 / まちづくりフォーラム港南 名和田、岡野、こじま、ふちもと / さわやか港南 川辺、細谷 / 日下地域ケアプラザ 沼 / 地域振興課 合田係長、淡路 / 生涯学習支援センター相談員 後藤 / 区政推進課 伊藤課長、中林係長、雙田 / 横浜市まちづくりコーディネーター 山路（以上15名）

1 自己紹介

2 事業立ち上げの経緯

◆市民活動支援センター（20年夏整備予定）

- ・区民ニーズ「地域に身近なところで区民活動支援を」（18年度アンケート調査結果）
- ・港南区の交通的・地形的特徴（3エリア）
- ・民間活動拠点（区内6箇所）が活発

【市民活動支援センターランチ構想】

市民活動団体や民間事業者が運営する「民間活動拠点」に、支援センター機能の一部を担ってもらおう！



ランチとして、担える機能・課題等の抽出、解決に向けたモデル実施
=交流ステーション事業

3 当会合の趣旨

- ・モデル事業の検証だけでなく、支援センターのあり方、及び区民活動の活性化の方策等について広く検討する場
- ・メンバーも限定せず、いろいろな関係者に参加してもらう

4 各拠点の取り組み発表

5 意見交換

- ・あらゆる団体・施設のつなぎ役（=コーディネーター）が必要。
- ・現場や地域に出向き、いろいろな活動を知ることが大切。
- ・福祉、まちづくり・・・など分野の壁を超えた支援センターにしたい。

イ 第2回情報交換会

○日時：平成19年10月10日（水）15：30～17：30

○場所：さわやか港南

○出席：港南台タウンカフェ 斉藤 / まちづくりフォーラム港南 名和田、岡野、鈴木 / さわやか港南 川辺、細谷、斎藤 / 日下地域ケアプラザ 沼 / 市民活力推進局協働推進課 新堀 / 地域振興課 合田係長、淡路 / 生涯学習支援センター相談員 浜野 / 区政推進課 伊藤課長、中林係長、雙田 / 横浜市まちづくりコーディネーター 山路（以上16名）

1 市民活動支援センターフォーラムの報告・感想

- ・今後、市版と区版の機能（役割）の違いや、関わり方を明確にしていく必要があるのでは？

2 「拠点」とはどのような場所か？

◆誰もが気軽に集まれる「公共の場」

- ・人と人をつなげるネットワーク、情報を有している人（＝コーディネーター）の存在
- ・人材の掘り起こし機能（何かしてみたいが、どうしたら良いかわからない人などへ、積極的に働きかける。待ちの体制ではだめ。）
- ・「居場所」（ニートや不登校児の受け入れ。自分の存在を確認できる場所）

※では、なぜ、「拠点」は「気軽」に行くことができるのか？

→支援センター本体をどうすべきかの答えも見えるのではないか。

3 「ランチ」設置のメリットは？

＜拠点側＞

- ・行政と協働で事業を行うことで、区民から信頼を得ることができる。

＜行政側＞

- ・地域に身近な拠点と連携することで、地域の情報やニーズを把握しやすくなり、より地域に合った市民活動の支援、及び地域住民や活動団体の交流促進が期待できる
- ・すでに築かれている拠点の特長（拠点そのものの入りやすさ、コーディネート力・人的ネットワーク等）を活かして、事業展開が可能

ウ 第3回情報交換会

○日時：平成19年12月12日（水）19：00～21：00

○場所：港南区生涯学習支援センター

○出席：港南台タウンカフェ 斉藤 / まちづくりフォーラム港南 名和田、岡野 / さわやか港南 川辺、細谷 / 日下地域ケアプラザ 沼 / 市民活動支援センター 川崎 / 市民活力推進局協働推進課 新堀、近堂 / 地域振興課 村田課長、淡路 / 生涯学習支援センター相談員 寺川 / 区政推進課 伊藤課長、中林係長、雙田 / 横浜市まちづくりコーディネーター 山路（以上16名）

1 拠点見学報告

- ・楽田の郷（最戸1丁目）、日限山荘（日限山4丁目）
- ・主に高齢者を対象とした居場所、講座実施や昼食提供など
- ・個人宅の2階や離れを借りて活動
- ・閑静な地域の中で、近所とトラブルにならないよう注意して活動している（日限山荘）
- ・スタッフの不足（楽田の郷）

◆「拠点」の定義

- ・公共施設も「拠点」と言えるのではないか。/ 野外の拠点も。（例：プレイパーク）
- 「拠点」は単なる居場所ではない。「交流ステーション」にしかない機能を伸ばしていくことが大切。

人的ネットワーク、コーディネート、人材育成、市民活動の中間支援機能



branchに求められている機能

2 進捗状況

- ・協働協定書の締結（19年10月末）
- ・事業実施により、講座開催（無料）、チラシラックの増設などを行っている。
- ・相談業務について、どこまで対応できるか不安。スタッフのスキルアップも必要。

3 意見交換

- ・まずは、区役所内での情報共有を。（関係課が一丸となって事業に取り組むことが大切）
- ・拠点は区役所のどこにつなげて良い、という体制にすべき（拠点を縦割りにしない。）
- ・拠点、支援センターの得意分野を活かすことが大切。
- ・branchと本体の方向性が次第に乖離してしまわないよう、常に共通認識を持ち続ける必要がある。

エ 第4回情報交換会

○日時：平成20年1月24日（木）19：00～21：30

○場所：港南台タウンカフェ

○出席：港南台タウンカフェ 斉藤 / まちづくりフォーラム港南 名和田、岡野 / さわやか港南 川辺、細谷、斎藤 / 日下地域ケアプラザ 沼 / 市民活動支援センター 川崎 / 市民活力推進局協働推進課 新堀 / 地域振興課 合田係長、淡路 / 福祉保健課 石井係長 / 区政推進課 伊藤課長、雙田（以上14名）

1 3エリア構想について

- ・エリア分けすることで、各人の行き先を限定するようなことはあってはならない。
- ・「区」というエリアで考えないでほしい。（他区の利用者の受け入れ）

ブランチ構想は、区民にとって、従来より利用しやすいものであること。
通いやすい、居住地から近い、気軽に利用できる（入りやすい、親しみやすい）等

2 事業の進捗状況報告と今後の課題

- ・自主事業と委託事業どちらの成果だったか、切り分けが難しい。
- ・相談業務について、単なる関係機関の紹介でも責任が生じる。
- ・個人的な相談など、市民活動と関係ない部分はブランチ業務としてどう考えれば良いのか。

3 拠点と地域（自治会町内会等）とのつながりは？

地域の活動を行政が後押しする必要があるのではないか（区役所の意見）
（支援センター事業として、自治会町内会などへの支援も検討中）



（背景：地域の高齢化、役員の成り手不足、自治会町内会加入率の減少）

【さわやか港南】

- ・防災講座の開催、地域の要援護者への支援。
- ・近隣の自治会町内会の会合場所として、定期的に貸し出し。

【港南台タウンカフェ】

- ・港南台商店会との連携（かわら版の発行、テント村の開催）
- ・連合町内会主催の夏祭りへの出店
- ・港南台子育て連絡会に所属

【横浜市市民活動支援センター】

- ・「公益的組織」を対象に支援（自治会町内会は、「共益的組織」（会員の利益追求型）にあたる）

【日下地域ケアプラザ】

- ・自治会町内会における講座企画の支援、講師（街の先生等）の紹介など。

- ・講座の企画運営等における支援については、可能だと思う。
- ・支援センター本体が、地域に入り込んでいくのは難しいのではないかと。（オフィスタワーという立地、人員配置の問題など）

オ 第5回情報交換会

○日時：平成20年2月25日（月）15：00～17：15

○場所：日下地域ケアプラザ

○出席：さわやか港南 川辺、細谷、斎藤 / さわやか福祉財団 丹、鶴山、大坪 / 港南台タウンカフェ 斉藤 / まちづくりフォーラム港南 名和田、岡野 / 日下地域ケアプラザ 沼 / 市民活動支援センター 川崎、川嶋 / 横浜市まちづくりコーディネーター山路 / 地域振興課 合田係長 / 福祉保健課 石井係長 / 区政推進課 伊藤課長、金指係長、雙田（以上18名）

1 市民意見の聴取について

- ・施設職員等を対象に意見交換するのも大切だが、利用団体の意見を聞く場がオープン前にあると良いと思う。（実施するとすれば、20年5、6月頃か。）
- ・オープン前に市民を集めて意見を聞き、それが8月オープンの支援センターに反映できると良いのではないか。
→場所、広さ、ランチ構想など、かなり動かせない部分も多い。こうしたすでに形になっている部分を前提とした上で、さらに何ができるかという議論をしていきたい。

2 本体とランチとの関係について

（1）本体の事業内容

- ・現在の街の先生制度を進化させた、人材バンクの設置（地域人材の発掘・育成・活用）を検討している
→地域人材情報の発掘・育成などの部分で、行政とランチ、各施設が連携できると良いのではないか。

（2）ランチとの関係

- ・ランチという港南区の特徴をもとに、本体部分の機能を積み上げていくべきなのでは？

3 その他

- （1）もともと自主的に立ち上がった各拠点に「ランチ」という名前を冠することで、行政の下請け、出先機関と受け取られないよう注意する必要がある。

(2) 報告会の概要

通常の情報交換会のメンバーに加えて、地区センターや地域ケアプラザなど様々な地域施設に属するコーディネーターや相談員などの出席を求め、モデル事業の報告会とともに拡大版の意見交換会を行いました。

ア チラシ

～地域に身近な活動拠点が、魅力あるまちづくりを応援！～ 「まちかど交流ステーション事業」意見交換会

港南区では、平成20年度に区版市民活動支援センター整備を予定しています。そのため今年度については、市民活動団体等が運営する活動拠点と、「まちかど交流ステーション事業」として、市民活動の活性化の方法などを検討してきました。

今回は、日頃、地域や市民活動団体と接することの多い各施設の皆さんに、拠点の活動内容等をご報告するとともに、港南区の市民活動のあり方について意見交換を行いたいと考えています。

各施設、活動拠点の方同士、顔と顔を合わせ、交流を図れる機会でもあります！ぜひ、ご参加ください。

■日時 平成20年3月13日(木) 14:15～18:00

■会場

「さわやか港南」(港南区日限山1丁目32-4)

■プログラム

【第1部】拠点見学 14:15～14:55

- ・「さわやか港南」(港南区日限山1丁目32-4)

※参加される方は、14:00に市営地下鉄下永谷駅改札に集合(詳細は裏面を参照)

【第2部】報告会&意見交換会 15:00～18:00

- ・港南区版市民活動支援センター設置構想について
- ・「まちかど交流ステーション事業」事業報告
- ・意見交換(グループワーク)

【第3部】懇親会 18:15～19:15

※自由参加(会費 千円を当日頂戴します。)

■対象 市民活動支援に関係する機関の方、区民利用施設の職員の方
市民活動支援にご興味のある方 など

■定員 約30人

■主催 港南区役所区政推進課、地域振興課



○申込み方法・会場案内図は裏面をご覧ください

参考

地域に身近な活動拠点が、魅力あるまちづくりを応援！ 「まちかど交流ステーション事業」とは？

区内には、市民活動団体や民間事業者が運営している、地域に身近な活動拠点が
あり、地域の方々同士の交流や、地域活動の推進などに貢献しています。

今年度、港南区では、そのうちの2拠点和モデル事業を実施し、

- ① 区民活動の活性化や、地域コミュニティの形成に向け、地域に身近な拠点がど
のような役割を担うことができるか？
 - ② 区は、地域活動拠点とどのような連携を行っていくと効果的なのか？
- などについて調査検討しています。ここでは、その2拠点を紹介します。

「港南台タウンカフェ」

JR 港南台駅から徒歩2分、地域の人々が集うコミュニティカフェ。
カフェ内の壁には、60を越えるレンタル棚、「小箱ショップ」があり、
区民の方々による手作り作品が販売されています。

また、自治会・町内会、横浜港南台商店会や市民活動団体などと連
携して、交流イベントや、かわら版の企画運営などを行っています。
こうした事業の実施には、地域のさまざまな世代の方が関わっており、
港南台地域の人と人とのつながりをつくる場となっています。

営業時間：10:00～19:00（定休日：日/祝）
所在地：港南台4-17-22 ブックスキタミ2階
お問合せ：045-832-3855
URL：<http://www.town-cafe.jp/>



在宅支援サービス「さわやか港南」

「さわやか港南」では、「困ったときはお互いさま」を合言葉に、生活相談や家事援助サービス
など、地域内での助け合い事業を実施しています。また、地域の団体の活動・会議場所として部屋
を貸し出している他、災害対策やボランティア活動など、さまざまなテーマの講座を開催していま
す。

さらに、今年度中に、相談・交流コーナーを設置する予定です。今以上に、地域の方々が集いや
すく、ほっとできるたまり場になることを目指しています。

営業時間：10:00～16:00
（定休日：土/日/祝）
所在地：日限山1-32-4
お問合せ：045-820-5883



イ 出席者一覧

	氏名	所属	人数
1	布留川 英子	港南台地区センター	1
2	沼尾 ひろみ	永谷地区センター	1
3	三河 紀子	港南地区センター	1
4	葛野 泰男	東永谷地区センター	1
5	小野塚 正明	野庭地区センター	1
6	稲木 敏子	港南中央地域ケアプラザ	
7	柏木 優子	港南中央地域ケアプラザ	1
8	大山	下永谷地域ケアプラザ	1
9	土屋	下永谷地域ケアプラザ	1
10	守谷 紀美子	港南国際交流ラウンジ	1
11	安藤	子どもログハウス	1
12	渡辺 ひとみ	NPO法人ちゅーりっぷ	
13	吉田 幸子	ひまわりひろば「あっぷっぷ」	1
14	吉川	子育てまち育て塾	1
15	井上 小枝	コミュニティールーム・ここ	1
16	住江 智子	区民利用施設協会	1
17	西塚	包括支援センター(ふようえん)	1
18	外岡(とのおか)	サンパレー	1
19	川辺 裕子	さわやか港南	1
20	斎藤	さわやか港南	1
21	細谷	さわやか港南	1
22	斉藤 保	港南台タウンカフェ	1
23	岡野 富茂子	タウンカフェ・子育て連絡会	1
24	名和田 是彦	まちづくりフォーラム港南	1
25	沼 佐代子	日下地域ケアプラザ	1
26	山路 清貴	横浜市まちづくりコーディネーター	1
27	川崎 あや	横浜市市民活動支援センター	1
28	川嶋 朋美	横浜市市民活動支援センター	1
29	新堀 大吾	市民活力推進局協働推進課	1
30	後藤	生涯学習支援センター	1
31	合田係長	港南区地域振興課	1
32	淡路 智子	港南区地域振興課	1
33	伊藤課長	港南区区政推進課	1
34	金指係長	港南区区政推進課	1
35	雙田	港南区区政推進課	1
合計			33

ウ 議論の主題

◇意見交換会開催の狙い（開会時）

- (1) 地域の中の拠点の存在、果たしている役割などを知ってもらう
- (2) 区版市民活動支援センター構想についての情報発信を行う
- (3) 市民活動団体や地域を支援することの多い施設が、施設管理だけに留まらず、市民活動のコーディネートや人材育成にも目を向けてもらうきっかけにする
（拠点からの報告を受け、集まった施設職員が、今後、自主企画講座などをつくる際など、地域活動を支援する上でのヒントを持ち帰ってもらう）
- (4) 市民活動支援センター（本体・ブランチ）として、今後、情報交換などを行っていきたいと考える施設との交流を図り、20年度以降の各施設のつながりづくりに役立てる

◇事業報告のまとめ（次のグループワークにつなげるためのまとめ）

- (1) 19年度「まちかど交流ステーション事業」を実施
 - ア 拠点の特徴及び支援センターブランチとして担える機能等の調査・検討
 - イ 支援センターとの効果的な連携方法等の調査・検討
- (2) 情報交換会（計5回）の中の議論
 - ア 拠点はどのような特徴を持っているか（地域や活動団体にとってどういう場所か）
 - ・「交流ステーション」は単なる「居場所」ではない
（人的ネットワーク、コーディネート、人材育成、市民活動の中間支援機能などを持つ）
 - ・区民利用施設等も「交流ステーション」として機能するとより効果的なのではないか
 - ・施設・拠点・行政間の情報交換の必要性
 - イ ブランチに求められる機能とは何か（ブランチとして何ができるか）
- (3) 拠点による振り返り
 - ア 相談内容と対応方法の整理
 - イ 人材育成の場、新たな活動が生まれる場、既存の団体と団体・団体と個人等をつなげる中間支援的な役割、などの発見

◇グループワークの進め方

- (1) 3グループに分かれてグループワーク（1グループ6名程度）
- (2) 議論のテーマ
 - ア 日常業務の内容と市民（地域や活動団体）との関わりは？（自己紹介も兼ねて）
（ポイント）
 - ・特に、市民との関わりの中で限界を感じている部分（課題）、施設の「持ち味」などとは何か？

イ 何があれば、市民との関わり（支援）がより充実したものになりそうか？

また、他の施設や拠点ならできそう、というものはあるか？（いろいろな施設間での効果的な連携・協力方法は？）

（ポイント）

- ・現在、地域活動や人材に関して、各々はどういう情報を持っているか？

ウ 港南区版市民活動支援センターに期待することは？

エ 地域との関係は？

（ポイント）

- ・地域（自治会町内会など）から相談などを受けることはあるか？

- ・地域活動を行う人を増やすためにはどうすれば良いか？

（地域デビュー、生涯学習から市民活動への展開、リーダーの養成など）

エ 報告会での主な意見

◆日時：平成 20 年 3 月 13 日（木）14:00～18:00

◆場所：さわやか港南（港南区日限山 1 丁目 32-4）

◆参加者

【第 1 部】さわやか港南見学

- ・施設職員 11 名（地区センター、地域ケアプラザ、国際交流ラウンジ等）
- ・拠点関係者 6 名（コミュニティルーム・ここ、さわやか港南、港南台タウンカフェ等）
- ・行政関係者 3 名（横浜市市民活動支援センター、市民活力推進局協働推進課）
- ・事務局 5 名（横浜市まちづくりコーディネーター、区政推進課、地域振興課） 計 25 名

【第 2 部】意見交換会

- ・施設職員 11 名、拠点関係者 9 名、行政関係者 4 名、事務局 6 名 計 30 名

◆議事録

【第 1 部・拠点見学】（14:15～14:55）

- （1）さわやか港南の内部見学（建築中の相談ルームを含む）
- （2）さわやか港南（川辺氏）より活動内容の紹介



【第 2 部・意見交換会】①拠点より活動報告（15:00～16:20）

- （1）はじめに（横浜市まちづくりコーディネーター山路氏）
 - ・港南区では、20 年 8 月に区版市民活動支援センター整備を考えている。
 - ・ネットワーク型の市民活動支援センターを目指すために、まずは、公的、民間を問わずに、市民活動に関わっている人たちとの意見交換の場を設けた。
- （2）市民活動支援センター設置構想と、「まちかど交流ステーション事業」についての説明（区政推進課雙田）
 - ・平成 12 年、横浜市市民活動支援センター設置（現在約 2000 団体の利用）
 - ・平成 16 年より、区単位での支援を目的に区版の支援センター設置（現在までに 12 区で展開）
 - ・港南区では、区版支援センター整備に向け、市民活動団体にアンケート・ヒアリング調査やフォーラム等を実施。
→区民ニーズ、港南区の特徴などから、区独自の「ブランチャ構想」誕生。
 - ・ブランチャとして民間の拠点が担える機能等を調査・検討するため、19 年度は「民間活動拠点活性化モデル事業」として実施。
- （3）港南台タウンカフェより活動報告（斉藤氏）
 - ・平成 17 年 10 月立ち上げ。現在は 1 日 100～120 名の利用あり。

- ・カフェ、地元のパンやお菓子の販売、小箱ショップなど。
- ・横浜港南台商店会、市民活動団体（まちづくりフォーラム港南）、株式会社 e-town の連携で運営している。
- ・スタッフは7名（1時間 800 円）、ボランティアは20名。
- ・市民活動をしたい人・・・お茶を飲みながら気軽に相談に応じ、それを形にしてきたのが特徴と言える。



- ・タウンカフェスタイルの市民活動支援は、「コーディネート」（専門分野のところに つなげる）、つながりづくりの道具（コーヒーを飲みながら）がある。

（4）さわやか港南報告（川辺氏）

- ・活動内容は、生活支援中心。「困ったときはお互いさま」をモットーに、お互いの話し合いの中で解決していく。
- ・さまざまな地域の方が団体の趣旨に賛同、協力してくれている。
- ・地域の高齢者、障害者支援だけでなく、子どもの心を育てる取り組みも行っている（不登校児の子どもへの支援など）。
- ・相談の他、講座や地域交流イベントの開催、丸山台地域の情報発信（情報紙の編集）なども行っている。

（5）まとめ（名和田教授）

- ・港南区は、こうした活動拠点が他区より多く、民間の活動が活発。
- ・タウンカフェとさわやか港南の共通点は、①相談、連携（コーディネート）機能
②多様な人材発掘の場 ③地域に根を張っている、こと。

【第2部意見交換会】②グループワーク（16:30～18:00）

（6）グループワーク・テーマ

ア 日常業務の内容と、市民（地域や活動団体）との関わりは？

イ 何があれば、市民との関わり（支援）がより充実したものになりそうか。

また、他の施設や拠点ならできそう、というものはあるか。（いろいろな施設間での効果的な連携・協力方法は？）

ウ 港南区版市民活動支援センターに期待することは何か。

エ 地域との関係はどうか。

（7）グループワーク発表

（A グループ）

- ・民間の運営は、経営面での問題が必ず発生する。
- ・市民活動・生涯学習団体のニーズ調査について、的確に事業に反映されているのだろうか。
- ・分野やバックボーンが違っている中で、どうつながっていけば良いのか。（また、そのつなげ



役を支援センターが担うことが適当なのかも検討する必要あり。)

- ・生涯学習支援センターから市民活動支援センターになったとき、職員の意識をどう変えていけば良いのか、変えていくことができるのか。

(B グループ)

- ・民間事業者については、家賃及び人件費の問題がある。また、地区センター等はやらなければならない業務があり、市民活動支援まで広げるのが難しい状況である。
- ・それぞれの地域に埋もれているアイデアやきっかけをつなげられると良い。
- ・施設や拠点同士で、想いを出し合い、刺激し合えるようになると良いのではないかな。
- ・異分野で活動する人たちが集える機会を提供し、そこで集まった想いを吸収できる支援センターになってほしい。

(C グループ)

- ・区内の専門機関や拠点スタッフの顔が互いに見えたのが良かった。
- ・分野別、行政的縦割りにならないような支援が重要ではないか。
- ・自分の施設が地域に対して何ができるか、考えるきっかけになった。

(8) まとめ (横浜市まちづくりコーディネーター山路氏)

- ・各施設、各拠点は、それぞれ特徴や持ち味がさまざまであり、これまで各機関が集まる機会は無かった。
- ・行政と拠点関係者が集まり、今後の市民活動支援について考える中で、地区センターや地域ケアプラザも人が集まる「拠点」と呼べるのではないかな、という意見が出てきた。それが、今回の意見交換会のきっかけになった。
- ・20年8月に市民活動支援センターができることもあり、今後の港南区の市民活動を考える良い機会だと思う。その際に、行政の縦割りの中に入れてしまうのではなく、地域の横のつながりの中から考えていきたい。

(9) 最後に (港南区 伊藤区政推進課長)

- ・地域の方は地域に根づいていて、行政は人が替わっていつてしまう。しかし、そうしたことににかかわらず、地域を良くしていきたいという同じ想いでやっていきたいと思う。



■グループ表

Aグループ(斉藤さん・金指係長)

	氏名	所属
1	葛野 泰男	東永谷地区センター
2	住江 智子	区民利用施設協会
3	柏木 優子	港南中央地域ケアプラザ
4	川崎 あや	市民活動支援センター
5	吉田 幸子	ひまわりひろば「あっぷっぷ」
6	細谷	さわやか港南

Bグループ(岡野さん・合田係長)

	氏名	所属
1	布留川 英子	港南台地区センター
2	小野塚 正明	野庭地区センター
3	沼 佐代子	日下地域ケアプラザ
4	井上 小枝	コミュニティールーム・ここ
5	斎藤	さわやか港南
6	淡路	港南区地域振興課

Cグループ(川辺さん・雙田)

	氏名	所属
1	三河 紀子	港南地区センター
2	沼尾 ひろみ	永谷地区センター
3	後藤	生涯学習支援センター
4	渡辺 ひとみ	NPO法人ちゅーりっぷ
5	名和田 是彦	まちづくりフォーラム港南
6	新堀 大吾	市民活力推進局協働推進課

■グループワークでのコメント

A	・市民活動支援・・・「ここまでではできないが、ここまでだったらできる」というものはあるか。
	・公的機関と民間拠点との違いは何だろう。
	・「施設の管理者」というのではなく、「地域のおじさん」的存在。
	・縦割りを積極的にコーディネートする市民活動支援センター。
	・ネットワークを活かした支援をどのように行うか。
	・拠点を提供する立場として、どのように市民活動を支援するのか難しい問題。
	・市民活動支援についての行政のスタンスは？
	・自治会館は拠点にはならないのか。
	・こどもログハウス:学校との情報交換が必要(ex親父の会)。
	・地区センター:利用者の権利意識。
	・地域ケアプラザ:各種活動やイベント、勉強会(地域交流)。
	・子育てグループ:子育て支援を通して地域と関わっている。
	・子育てグループ:保育から、企画・運営ヘシフト(事業が増えてきた。転換期)
	・活動拠点:イベント、餅つき、お祭り、野菜の収穫、地域の交流促進。
	・組み合わせの場を誰がつくるのか。
	・市民活動支援センターになった際、職員の意識が変わるか。
	・今までと何が変わるのか、わかりやすくすることが大切。

B	○さわやか港南
	・川辺さんは、地区社協を通してさわやか財団に出会った。
	・スタッフは地域住民(地域でさまざまな役員をしている方)が多い。
	・地域の防犯パトロールへの参加、歴史を学ぶ会、囲碁(認知症の人)などの活動。
	・出前相談(自宅へ訪問)も行っている。
	・企業OBの人材発掘の場になっている(退職後の地域デビューの場)。
	・有償ボランティアとは？
	・ふらっと来れる居場所。
	・収穫がないけど「収穫祭」。
	・人が集うきっかけづくり。
	○コミュニティールーム・ここ
	・家賃が高い / 助成が必要。
	・小学生が社会見学に来た。
	・カルチャー、健康づくり、歌声喫茶、認知症能力アッププログラムなどの実施。
	・子どもたちをしつけちゃう。
	・ボランティアが有効に活躍。
	・みんなの居場所(いごごちの良い場所)。
	○野庭地区センター
	・平成14年2月オープン。館長(1名)、副館長(2名)、スタッフ(14名)で運営。
	・利用者の顔を見て。
	・貸し施設 / 健康、リフレッシュの場。
	・地区センターは、ボランティアの拠点となれるのか。
	○日下地域ケアプラザ
	・包括支援センターとケアプラザとの連携を強く。
	・町内会の人へもPR。
	・何気なく立ち寄る人をキャッチすることが大切。
	・図書館なんて人材の宝。(行って帰るだけではもったいない。)
	○港南台タウンカフェ
	・「まちづくりがしたい」+商店会とのコラボ。
	・小箱ショップの存在。
	・お茶(カフェ)が出会いのきっかけに。
	・貸し施設としては不十分だけど、情報の交流がある。
	・高校生ボランティアを支援。
	・実は、地域の中にいろんな人材がいる。
	・「やりたい」想いがたくさん。→もっと集めたい。
	○地域振興課
	・区版市民活動支援センターの運営主体。
	・生涯学習がパワーアップして、市民活動、地域活動へ。
	・施設間のネットワーク化。(異分野での交流も)
	○港南台地区センター
	・元気すぎる中高生が集まる。
	・地域ケアプラザとも連携している。(子育て連絡会とも連携を予定)
	・常勤スタッフは2、3名でローテーション。(ケアプラザと違いスタッフ数が少ない)

C	○利用者
	・区外、市外からの利用者もあり。
	・サークル紹介の相談が多い。
	・登録団体(約601)の情報をHPにアップする予定。
	・(生涯学習支援センター発行の)グループガイドの需要は高い。
	・団体役員の高齢化が問題。
	・利用者側も「私たちの施設」という気持ちを持ってほしい。
	・ルールをみんなでつくることが大切。
	○施設(運営上の課題)
	・地域性(交通の便など)
	・利便性(駅近くなど)/駐車場の充実。
	・利用料金、利用時間枠の問題。
	・無断キャンセルなど。「無料」に伴う「無責任さ」
	○施設の体制
	・職員の任期…つながりが薄れていく要因。
	・「楽しい」と思って通ってくれることを目指して。(気持ち良く利用してもらいたい)
	・「ここに行けばこの人に会える」という安心感。
	・ノウハウを吸収しあいたい。(専門機関同士のつながり)
	・人材育成の難しさ。
	・地域の課題をどのように発見していけば良いのか。
	・同じ施設でも、指定管理者が違っていると交流がない。
	・委託の問題(委託にある項目以上のことはできない)。
	・受け身ではない施設になりたい。
	・地域の情報がほしい。
	・「つながっていくこと」の大切さ。
	・ただお茶を置いておくだけでは人は集まらない。
	・分野で情報元が分かれてしまう。
	・他の施設の場所や役割を知らない。
	・スタッフのスキルアップの問題。
	・今回の会が、施設として地域とのつながりを考え始めるきっかけになった。

IV章：モデル事業の評価と今後の展望

(1) モデル事業を通じて見えてきたこと

ア 「民間活動拠点」の特徴

a. 誰もが気軽に集まれる場

- ・地域の小学生から高齢者に至る、さまざまな世代の方々が利用している。
- ・地域の方々にとっては、居住地から近いため、利用しやすい。
- ・活動場所としてスペースを利用したり、相談などを目的に利用するのはもちろん、特に用がなくとも「ぶらり」と立ち寄りやすい雰囲気がある。
(お茶やお菓子などの飲食ができる、情報ラックやギャラリー展の存在、拠点スタッフの気さくな人柄などが、そういった雰囲気を出していると考える。)
- ・また、ニートや不登校児の受け入れなども積極的に行っており、彼らにとっては、単なる居場所に留まらず、自分の存在を確認できる場所になっている。

b. 人々の交流、活動のきっかけとなる場

- ・さまざまな世代、分野の人々が拠点に集まることで、新たな交流や連携が生まれている。(特定の分野に限定された場所ではないため、普段関わることのない異分野の活動者同士のつながりが生まれ、新たな活動に発展している。)
- ・何か活動を始めてみたい、という市民の思いを受け止め、関係機関や人を紹介したり、具体的な実現のあり方を一緒に考え、活動に結びつけている。

c. ネットワークの形成

- ・地域の中で、さまざまな機関・施設との関係を築き、人的なネットワークを形成している。
(自治会町内会、商店会、市民活動団体、地区センター、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、横浜市役所、港南区役所など)
- ・こうしたネットワークを活用して、地域の情報交換、相談者への紹介、講座・イベント等における広報などの相互協力等を行っている。

d. 人材の掘り起こし機能

- ・拠点の運営や事業実施に地域の住民や学生などが参加しており、市民活動を行う人材の育成に役立っている。
- ・地域の中にいる、市民活動・地域活動の経験者や、専門知識を有している人材の情報を数多く有している。また、こうした人材を講師に招いて、講座やイベント等を実施している。

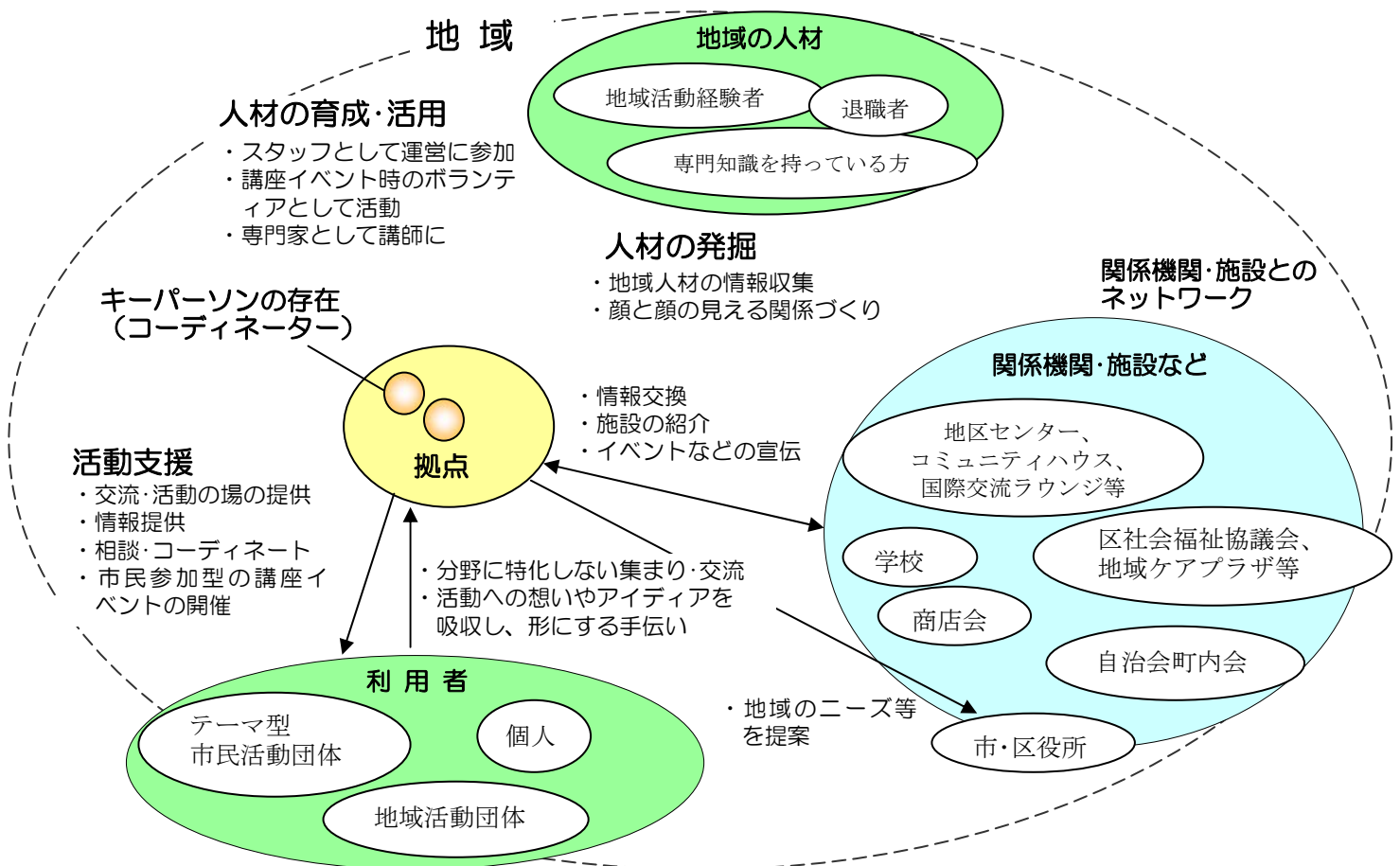
e. 人と人をつなげるキーパーソンの存在

- ・民間活動拠点には、人と人をつなげるキーパーソン（コーディネーター）的なスタッフが存在している。こうしたスタッフは、地域の事情に精通し、さまざまな機関・施設と活発に情報交換を行うなど、独自の人的ネットワークを築いている。

以上が民間活動拠点の主な特徴だと言えます。

特に、拠点という場所が、市民主体で「活動が生まれる場」であること、地域に根を張り、さまざまな機関・施設、活動団体とつながりを持っている部分などが、市民活動支援を進めるにあたって、大いに活用していくべき点ではないかと考えます。

■地域の中の民間活動拠点



イ ブランチと位置づける上での課題

本モデル事業の結果、民間活動拠点を市民活動支援センターのブランチとして位置づけるにあたり、課題になると想定できる点は以下の通りです。

a. 相談業務について

- ・本モデル事業実施時においては、「市民活動の相談ができる場所」としての周知等を行わず、通常の相談業務の中で、市民活動に関する相談がどの程度あるのかを調査した。

その結果、現段階においては、市民活動団体の相談は少ないことがわかった。しかし、日頃の相談・コーディネートの中で、関係機関・施設、活動団体・グループ等の情報収集と提供を行っており、こうした永年培ってきた相談のノウハウは、市民活動における相談業務にも活用できるのではないかと考える。

- ・ただし、相談の中でも、さわやか港南が主としている生活相談をブランチの業務と位置づけることは適当ではないと考える。そのため、拠点が行っている本来の相談（市民活動以外の相談）と、市民活動支援センターのブランチとしての相談とを整理する必要があると考える

b. 拠点スタッフのスキルについて

- ・特に、市民からの相談に対するスタッフの応対スキルをどこまで求めるのが課題である。ブランチのスタッフに求めるスキルのレベル、及びスキルアップの方法などについて、今後検討していく必要があるのではないかと考える。

c. 事業の成果について

- ・民間活動拠点では、すでに自主事業として、地域交流の促進、市民活動支援等を実施しているため、事業に対する成果については、「ブランチとしての事業」と自主事業のどちらによるものなのか明確にはできない可能性がある。

(2) 市民活動支援の展望と提案

ア ブランチ構想

以上のモデル事業の結果を踏まえ、20年度港南区版市民活動支援センター・ブランチ運営事業は以下のように進めていきたいと考えます。

a. 目的

- ・平成20年度整備予定の港南区版市民活動支援センターについて、より地域に近い場所できめ細かに地域貢献活動を支援すべく、市民と協働で、市民活動支援センターのサブ拠点（ブランチ）を設置します。

b. ブランチ設置により期待する効果

- ・各ブランチと基幹の支援センター、及び区役所との協働により、より地域に密着した市民活動の支援、地域住民や活動団体の交流の促進を目指します。
- ・拠点が有する、地域の自治会町内会、関係機関・施設、活動団体等とのネットワークを活用した事業展開を期待します。

c. 概要

(1) 設置場所

- ・港南台エリア（1箇所）、上永谷・下永谷エリア（1箇所）にある既存の民間活動拠点（計2拠点）を港南区版市民活動支援センターのブランチと位置づけます。（上大岡エリアについては、港南区版市民活動支援センター本体を設置します。）

(2) 実施予定時期

- ・平成20年8月（本体と同時オープンとします。）

d. 基本的な役割

(1) 講座・研修、イベント等の企画運営

- ・地域交流、地域貢献活動の推進に寄与するもの。
- ・地域貢献活動に従事する人材の発掘・育成に寄与するもの。
- ・団体・施設間のネットワークづくり、連携づくりに寄与するもの。

(2) 情報収集・発信

- ・地域の人材情報の把握。
- ・チラシの配架（市民活動情報、地域の情報、市・区役所情報等の掲示）。
- ・地域情報誌の発行。
- ・港南区地域ポータルサイト「ひまわりタネット」への定期的な情報提供。

(3) 市民活動に関する相談・コーディネート業務

- ・関係機関・施設の紹介。
- ・区内の活動団体、人材バンク等の紹介（こうなんグループガイド、街の先生ガイド等の活用）。

(4) 活動スペース及び機材等の提供

(5) その他

- ・区役所との定期的な情報交換会への出席。
- ・報告書の作成等、事業の検証作業等。

e. ブランチの要件

- ・主たる活動のエリアを港南区内としているNPO法人、任意の市民団体、個人、事業者が、運営している施設であること。
- ・不特定多数の区民を利用の対象としており、区民の交流、活動の場となっている施設であること。
- ・常時オープンし、スタッフが常駐している施設であること。
- ・地域活動の支援、地域コミュニティの形成に貢献している施設であること。
- ・区内の地域活動団体を始め、区民利用施設（地域ケアプラザ、地区センター等）等の関係施設とのネットワークを有している施設であること。
- ・すでに地域の中に根を張り、人的なネットワークを築いている活動拠点であること。

f. 港南区版市民活動支援センター本体との関係

- ・ブランチと本体は、協働のパートナーとして、対等な関係のもと、それぞれ事業の運営を行う。
- ・ブランチと本体及び区は、定期的な情報交換を密に行う。
- ・本体は、各ブランチがすでに実施している事業、得意とする分野を尊重する。
- ・ブランチは、主にエリア内における地域交流の推進及び、地域貢献活動の発展に努める。
- ・ブランチと本体は、事業実施結果について、それぞれの立場から検証・評価を行う。

g. 将来の展望

- ・20年度は、計2箇所ではブランチを展開予定ですが、将来的には、より一層地域に身近なところで、地域貢献活動の支援が行えることが理想です。よって、事業結果の検証等を踏まえ、他拠点にも拡大できる機能等がある場合は、2箇所に留まらず、積極的に広げていく必要があると考えます。

イ さらなる市民活動支援に向けて

a. 港南区版市民活動支援センター本体に期待する役割

センター本体は、区全域を俯瞰した市民活動支援の基幹施設として、そのあり方を独自に見つめ続け、様々な方策を推進していただくことが求められます。

ここに本事業を通じて明らかになった期待から、その役割のいくつかを提案いたします。

(1) 「協働のパートナー」としてのランチとの関係づくり

- ・本モデル事業を通じて既に見てきたように、センター本体とランチは、その成り立ちからして大きくことなる特性を持っている。したがってその関係は、上下関係によるものではなく、「協働のパートナー」として、双方の特性を出し合う対等の関係であることが求められる。

(2) 上大岡エリアのランチとして

- ・前項に記したランチ構想では、上大岡エリアにランチを想定していない。これは、センターがランチ的な機能を内包すると考えているからであり、民間による「まちかど交流ステーション」とは同質ではないものの、暮らしに身近な拠点としても機能する必要がある。

(3) 情報の集約

- ・区内の市民活動団体、地域の活動の情報その他、関係機関・施設についての情報なども把握している必要がある。そのためには、地域や活動の現場に市民活動支援センターの相談員が積極的に出向き、活動の実態を知り、また、顔と顔の見える関係をつくることが求められている。
- ・また、得た情報を区内全域で共有できるよう、効果的な情報発信を行っていかなければならない。その意味で、センターは地域ポータルサイト「ひまわりタネット」等を積極的に活用しつつ、その仕組みを育成、活性化すべく継続的な働きかけを行っていく必要がある。

(4) 関係機関・施設とのネットワークづくり

- ・市民活動支援を行っている区内の関係機関・施設のネットワーク化を目指し、市民活動支援センターがつなぎ役（コーディネーター）となって、各機関・施設に声かけを行う必要がある。
- ・その際、福祉、国際交流、子育てなど、従来の分野の壁を超えて、定期的な意見交換の機会を呼びかけることで、各機関・施設が今まで以上に市民活動支援に目を向けるように働きかけることが好ましい。

b. さるなる地域拠点連携と市民主体の地域運営支援の拠点として

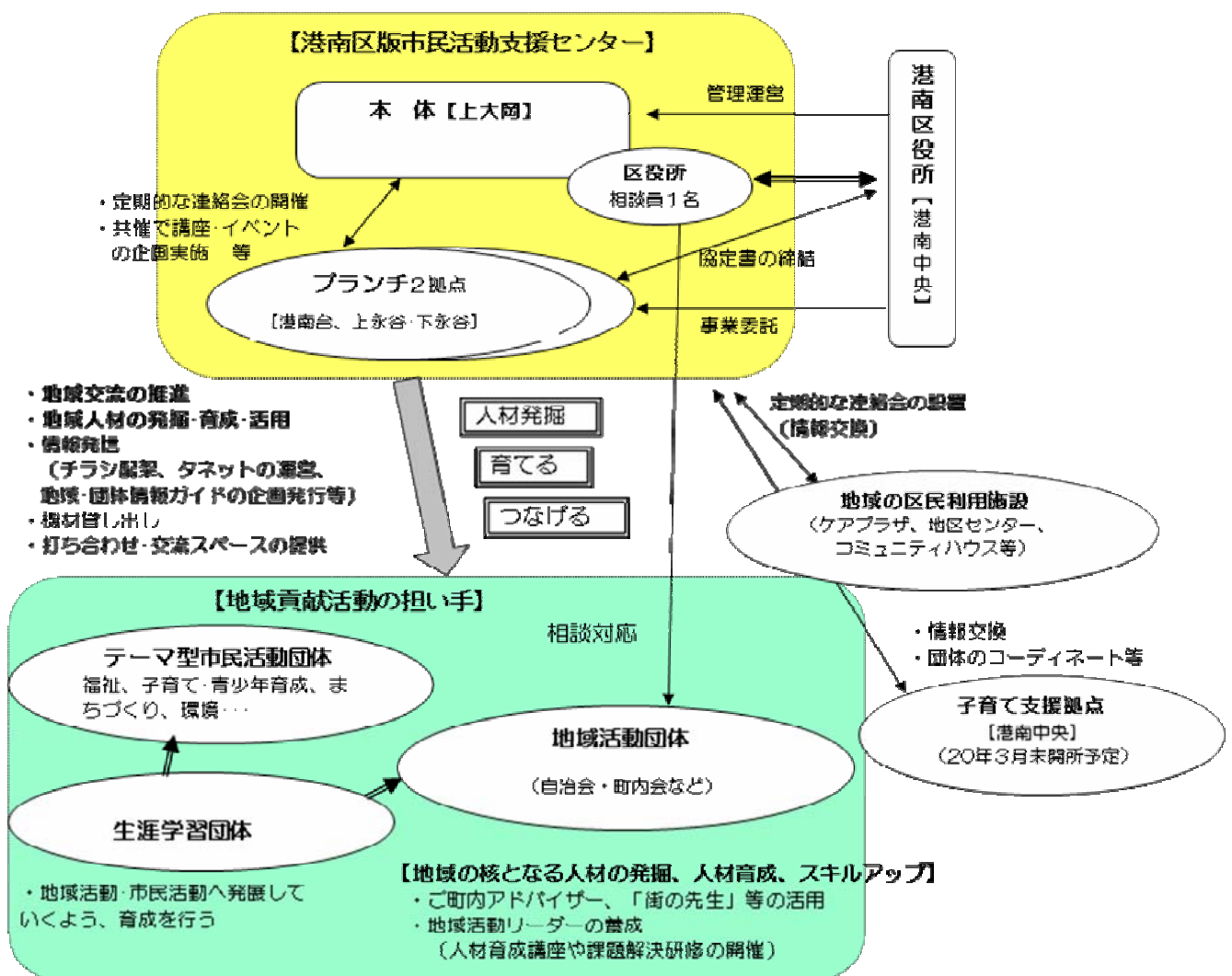
地域環境の中に存在する施設は、たとえそれが縦割りの行政的役割を背景として立地している施設であっても、よこつなぎに連携されながら、全体として地域の暮らしを支える拠点として機能していく将来像をイメージしています。

そうあるためには、各施設が市民活動支援の一翼を担っている拠点としての意識を共有していなければなりません。

その上で、常に地域活動の担い手となる人材の発掘、育成、連携に力を注ぎ、「地域力」の向上に努めていく役割を発揮する必要があります。

その結果として、地域が主体とした地域運営（エリアマネジメント）を可能とする地域社会が出現することでしょう。

■さるなる市民活動支援への展開模式図



民間活動拠点活性化モデル事業調査報告書

2008年3月

委託：港南区区政推進課

〒233-0004 横浜市港南区港南中央通 10-1

TEL (045)847-8319 FAX (045)846-2483

受託：山路商事株式会社横浜支店

〒230-0015 横浜市鶴見区寺谷 2-7-2

(東京事務所)

〒174-0061 東京都板橋区大原町 13-12-306

TEL (03) 6782-5630 FAX (03)6782-5630